

宮崎医大整形外科

同門会誌

第 13 号
平成 14 年 3 月

宮崎医科大学整形外科学教室同門会



平成14年度 宮崎医科大学整形外科教室忘年会 平成13年12月1日 於：ホテル神田橋



平成13年度 宮崎医科大学整形外科学教室 新入教室員歓迎会 平成13年6月2日 於：宮崎観光ホテル



会 長
河 野 雅 行

ご 挨拶

新年お目出とうございます。皆様にはお変わりなく新年を迎えられ、年始の慌ただしさからようやく平時の生活にもどられた頃と思います。

昨年・21世紀初めの一年は如何でしたでしょうか？古来より世紀末・世紀初めには様々の大事件が発生するとその予言に違わず昨今は大事件が頻発しています。明るい話題が無いのか、話題性に乏しいので報道しないのかは定かではありませんが、残念ながら明るいニュースが少ない様です。ニュースの原因は、諸外国では宗教・人種問題等が絡んで複雑な事情が有り、様々の問題が発生するのもやむを得ない気もします。一方、我が国における社会情勢は全ての原因が経済不況のみに端を発しているように思われますが如何でしょうか？学園紛争時に「清貧」とか「物質的なもので無く心のゆとりだ」等と活動家が叫んでいたのは何だったのでしょうか？今更ながら日本が経済大国の虚名に隠れて物質文明に毒され、精神的充実に乏しい状態であるのが露呈された感があります。

2002年は医療界にとっても、厳しい風が吹きまくる年になりそうです。医療制度の改革が唱えられ、一部では実施されると決まっております。医療制度が少しばかり変わって、所謂、大元がくしゃみをすると我々現場では肺炎にも匹敵するような状態が惹起しかねません。2.7%のダウンは現場では10%以上のダウン感覚として現れると試算されています。その他、国・公立病院の統廃合、研修制度の見直し等々油断ならない事項が目白押しに並んでいます。しかし歴史を振り返って観ますと、医療を巡る社会情勢で問題の無い時は過去にも有りませんでした。危機だ危機だとは言われながらも知恵を出し合って何とか対応して来たのですから、今後も上手く行くの

ではないか？との楽観論も一部にはあります。

そんな中でも明るい話題としまして日本医師会2001年度記念事業野球大会では同門の諸先生方の御活躍で見事に全国制覇を成し遂げることが出来ました。小なりと言えども全国制覇は気分の良いものです。御協力有り難うございました。

幸い、同門会活動は皆様方の御協力を得まして、社会の動きに関係なく順調です。会員も増加しつつあり、それに連れて会員諸氏の学会を始めとした諸方面での御活躍を耳にする機会も増えてまいりました。新規開業の先生方も順調な経過である、と伺っております。誠に心強く喜ばしいことです。

毎度繰り返して申させていただきますが、世間が騒がしい時にこそ同門会の結束が重要視され、真価を問われる時です。今後も是非とも同門会活動に御協力をいただき、盛り立てて戴きたいと思えます。

本年が皆様方にとりまして善き年でありますように、祈念いたします。
(平成14年1月)



巻 頭 言



教 授 田 島 直 也

今年もあと僅かになった。月日が経つのは全く早いものである。年をとると早く感じるというが、全くあっというまの1年間であった。

社会的には9月のニューヨークの多発テロからアフガニスタン、タリバンとの戦争状態イスラエル、パレスチナの中東の緊張—テロと報復の応酬—がおこっている。私共への影響といえば海外出張の制限、自粛のため11月のニューヨークでのBiomechanics関連の学会出席、Goel教授訪問を中止した。しかし、アメリカ留学中の黒木浩史君、今年大学院を修了したラシドル君（ニューヨーク滞在）が無事であったのは何よりであった。

国内の明るいニュースといえば皇族一家に内親王誕生があり、私共の同門会もちょうど誕生日に行う事ができ、記念すべきものとなった。

さて、健康な時は健康の有り難さがわからないといわれるが、私も6月野球の外野の練習中、ちょっと膝を捻ったのが外側半月板損傷（疑）—MRI—となり6ヶ月運動が制限されてしまった。しかし、この間、2001年日本医師会の記念事業の野球大会に宮崎医師会チームの監督として出場でき、東京ドームの試合で優勝することができた。また、同じ姿勢の持続で特に長時間の運転をすると腰痛がおこり急に伸ばしにくくなってきた。外来で膝にしても腰にしても同じような愁訴のある人の状態はよく分かるようになった。

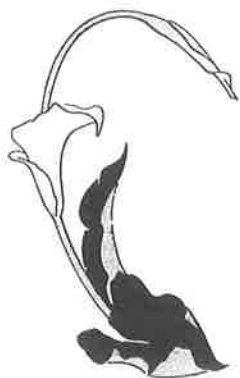
入局希望者でスポーツ外傷や傷害の経験者も多くいるが、そういう人が本当に選手の身になって理解してくれるドクターとして適任と思われる。

最近、日整会では柔整師問題が大きな話題になってきている。これは柔整師関係の学校新設の申請が出されていることもある。現在日整会員は約2万人、柔整師は3万人といわれているが、これ以上、柔整師の方が増えると社会的にも問題になってくる。最近柔整師の人のスポーツの関心が強く、特にスポーツトレーナー等として現場に参加することが多くなっている。今後、法的に認められている柔整師とどう共存していくか問題である。

一方、医療費が大きな政治的問題となり、個人負担額の増加、医療費の引き下げ等、医師をとりまく環境は大変きびしくなっている。いづれにしろ整形外科医は「骨・関節の専門医」として社会的にも認められるよう研鑽し実力をつけておく必要がある。

来年6月に第31回日本脊椎脊髄病学会を宮崎で開催予定である。現在すでに470題の演題応募があり、この領域の関心が大きい事が示されていると思われる。学会については種々企画しているが、ぜひ有意義な学会にしたいと念願している。同門の先生方の御協力・御支援を切にお願いする次第である。同門、教室の先生にとりまして、来年は良い年で飛翔の年になることを祈念いたします。

(平成13年12月12日 記)



目 次

ご 挨拶	会 長 河 野 雅 行	
巻 頭 言	教 授 田 島 直 也	
同 門 会 報 告		1
講 演 抄 録	平 川 俊 一	2
医 局 長 挨 拶		
医局長を終えて	園 田 典 生	3
医局長就任にあたって	渡 邊 信 二	5
随 筆		
近況ご報告	玉 井 達 二	6
「長寿は難し」	木 村 千 仞	7
旅の途中	川 野 啓 一 郎	8
整形外科10年を振り返って	末 永 治	11
整形外科になって10年過ぎて今	矢 野 浩 明	12
整形外科30年を振り返って	平 部 久 彬	13
整形外科30年を振り返って	永 吉 洋 次	14
留 学 記		
アメリカ留学中間報告	黒 木 浩 史	17
趣 味 悠 々		
趣味は将棋	松 本 宏 一	19
魚つりいろいろ	麻 生 邦 典	21
新 規 開 業		
新規開業	長 田 浩 伸	22
新規開業	結 城 祥 一	24
新規開業	作 良 彦	26
野 球 大 会 報 告		
野球大会報告	福 元 洋 一	28
野球大会を終えて	渡 邊 信 二	30
平 成 13 年 同 門 会 ゴ ル フ 大 会 報 告	平 川 俊 一	32
第 4 回 同 門 会 テ ニ ス 大 会 報 告	福 田 健 二	34

認定医(専門医)試験	山 本 惠太郎	35
	向 井 由 姫	38
医 局 旅 行		
厚生課と医局旅行	矢 野 浩 明	39
新入会員紹介(賛助会員)	田 代 逸 哉	41
	丸 田 廣	41
新入会員自己紹介(正会員)	大 倉 俊 之	42
	上 通 一 師	42
	勝 鳶 葉 子	43
	桐 谷 力	43
	小 松 奈 美	44
	福 嶋 秀一郎	44
教室同門の研究業績		45
編 集 後 記		69

同門会報告

宮崎医科大学整形外科教室平成14年度同門会総会議事録

(H13 10/1～H14 9/30)

日時：H13 12/1(土) 16:00～17:00

場所：ホテル神田橋

1. 平成13年度報告(平成14年度も一部含む)

1) 会員状況(平成13年9月30日現在)

正会員：129名、賛助会員：35名

2) 会員動向

新入正会員

大倉 俊之先生(平成13年1月1日付)

上通 一師先生(平成13年5月16日付)

勝嵐 葉子先生(平成13年5月16日付)

桐谷 力先生(平成13年5月16日付)

小松 奈美先生(平成13年5月16日付)

福嶋秀一郎先生(平成13年5月16日付)

新入賛助会員

田代 逸哉先生(平成13年12月1日付)

丸田 廣先生(平成13年12月1日付)

異動

(平成13年7月1日～について同門会便り第17号に記載済み)

医局長

園田典生先生から渡邊信二先生へ(平成14年1月1日付)

開業

永井 孝文先生(平成13年1月15日)

長田 浩伸先生(平成13年3月1日)

結城 祥一先生(平成13年5月1日)

作 良彦先生(平成13年5月15日)

2. 平成13年度会計報告

戸田先生・桑原先生による会計監査報告があり承認された。

3. 役員改選

平成14・15年度の役員改選が選挙管理委員(矢野・村上先生)下に会則6条に則り行われた。選出役員は平成13年12月発行の会員名簿(P4)に記載済み。

4. 平成14年度事業計画・予算

総会・役員会・懇親会・親睦会・講演会開催、同門会誌・名簿・便り発行、学会支援(日本脊椎脊髄学会H14 6/6～6/7)などが承認された。

*第2回役員会(平成13年12月1日)における了承事項

会則第5条(役員)の定数などの変更について協議を継続する。

宮崎医科大学整形外科教室平成14年度 (H13 10/1~H14 9/30)
同 門 会 講 演 会

日時 : H13 12/1 (土) 17:00~18:00
場所 : ホテル神田橋



「頸椎手術症例の検討 —自験例の成績から—」

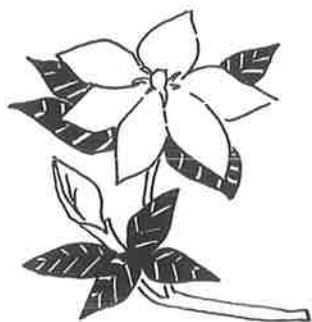
ひらかわ整形外科クリニック
平 川 俊 一

頸椎部における手術症例の内、自験例について検討を行った。対象としたのは、宮崎医科大学附属病院において1992年から1996年までの同一執刀者の症例である。該当するものは100例であった。

疾患の内訳は、頸椎症性脊髄症42例、後縦靭帯骨化症25例、頸椎椎間板ヘルニア15例、骨折等の外傷に起因するもの8例、関節リウマチ6例、腫瘍2例等であった。手術術式として選択されたのは、2椎間までは前方法、それ以上は後方法の原則により、棘突起縦割式脊柱管拡大術（自家骨、ハイドロオキシスパーサー）、前方除圧固定術が多く選択されていた。

臨床成績は同門各位の各種学会発表、論文を参考にしていただきたいが、3年間の短期成績においてJOA-scoreにおいては改善が見られていた。

合併症として、術中では硬膜の損傷を来したものの1例であった。術後ではC5麻痺の1例、術後せん妄2例、十二指腸潰瘍穿孔、腹膜炎をおこした1例、MRSA腸炎2例等であった。これらの例につき具体的に言及した。その他、Keegan麻痺発症から10年かけて脊髄症状を呈した例、特異な経過をたどった例、反省点のあった例について提示し、検討を加えた。





医局長を終えて

園田典生

平成13年1月から医局長をおおせつかり1年間、大きな病気やトラブルを起こすことなく任務を遂行することができたことは教室をはじめ同門の先生方のお力添えがあったからこそと紙面をおかりして深くお礼申し上げます。

学生時代からの悪友である前任の黒木先生は2年間継続されたのですが1年間、医局長業務を行い、その内容を振り返るとよくやってくれたと思う反面、彼の比較的(?)温厚な性格と物事のけじめをつけるうまさがあったからだと思心させられます。その点、私のような性格ですと1年間でよくトラブルを起こさなかった(水面下では起こしていたと思います。)と不思議なくらいです。また、学生時代からのクラブの後輩でもあるY先生をはじめ学内では臨床面で非常に迷惑をかけたことを申しわけなく思います。今年もよろしく願います。

さて、教室にとって今年、来年は転換期になりますが、その直前で医局長をさせていただいた感想を述べさせていただきます。このような時期は教室員の動向としては動きが激しく正直言って、教室の規則など紙面上にはあっても実際は何もないようなものでまさかと思うような言動がたびたび耳に入りました。その都度どのようにして人員を確保していくかで教室をまとめる立場としては頭を悩ませました。その結果、関連病院の削減ということではしか補えない状況になり、一部の先生方には多大なご迷惑をおか

けることになりました。そのことに関して学外の諸先輩方のお話しをお聞きし確かに先生のおっしゃるとおりですと言わざるを得ないことが数多くありました。正直申しましてなぜ私がこんなに悩まなければならないのか?自分も好きでこの立場にいるのではない。私も個人的な意見を上申して好きなようにやりたいと思う機会がこの1年間でどれだけあったか数えきれません。しかし、教室という組織のなかで育てていただき、ここまでこれたこと、自分の後にも後輩がいることを考えるとせめて1年はこらえて教室のため・後輩のためと思いとどまるのでした。

医師というのは一般社会における常識がないなどと言われがちですが、私も含めましてこのことは医局長をとおしてよくわかりました。一般社会の組織ではトップの指示に従わなければ、すぐに職を失うことになるでしょう。それを覚悟で行動を起こすことは個人の責任ですので問題はないと思います。このような考えを持っておられる先生が教室内にいらっしゃるのも事実ですが、それ以上に自分の希望する施設への出向ばかりを言われる先生も数多くおられるのも事実です。そのような先生にかぎって教室が主催する研究会・会議などへの参加が少なく、現在学内に長期に在籍している教室員とそのような先生方とをすべて入れ替えるような人事案を真剣に考えたこともありました。現在、学内へ

在籍されている先生なら現状を理解してくれているだろう。研究会などへも積極的に参加してくれるだろうと考えたからです。人事に関して前医局長が以前書かれた、『大学だけは…。』という先生がいることじたいが問題があります。この傾向は今の教室の状況を考えると増える傾向が予想されます。そのような否定的な意見を考える一方で、『ぜひ、大学に帰してください。』という教室員が多い教室が学内の他教室にあることを耳にするといった何がそんなに違うのかと考えさせられます。これは現在、学内にいる我々にも責任があるのでしょうか。

ではどうすれば、この状況が改善されるのか？今までの諸先輩方であればどのように対応されるだろうか？などいろいろと考えたのですが結局はこの1年で私は解決の糸口もみつけることができずでした。いや、考えとしては出てきましたがそれは教室の現状を考えるとただの理想論でしかなく、実行することは困難であることを痛感しました。教室員の増加は少しずつですが着実なものになっておりそれは将来的には問題を解決してくれるでしょうが差し迫った現況を改善するには教室員の意志（いかにして教室員1人1人が教室をもりあげていくか？）の統率が欠如していることへの解決策は組織規模が大きくなるにつれて困難なものとなるかもしれません。このような考えを持つこと自体は私が体育会系の考えであるからかもしれませんが。しかし、整形外科学を学ぶものはある

種、徒弟制度に従うべきだと思います。糸の結び方・メスの持ち方など教科書の知識ではありません。実際の現場で師匠である先輩に怒鳴られて上手くなるものでしょうし、師匠の技術を盗むことで上達するものです。このようなご経験は先輩方も含めてほとんどの先生があると思います。私個人もこの人と思える師匠（仕事の他にもいますが）がおられますし、その方への感謝の念は今後の人生でかわることはないと思います。時代遅れかもしれませんがこのような考えは組織の1人としてだけではなく人として必要ではないでしょうか。先輩方からは生意気な奴とか、後輩からは古いよなどと言われるでしょうがこの1年で私はさらにこのことを強く感じました。医局長としては教室への貢献はできませんでしたがこのように1年間をとおして経験したこと・考えたことは私個人の今後を考えるうえで決して無駄ではなかったようにしたいと思います。個人個人でそれぞれの立場があるとは思いますが、仕事をするうえで、組織の1人として存在するうえで少しでもこのような考えを持っていただけるなら教室の現状は改善されるのではないのでしょうか？

最後になりますが、医局長としての1年間で、学内外の教室の先生・同門の先生方には多大なご迷惑をおかけしたと思いますが、これも自分なりに少しでも教室のためと判断して行ったことですのでご容赦いただければと思います。ありがとうございました。



医局長就任にあたって

渡 邊 信 二

この度、前医局長の園田典生先生に代わり医局長を務めさせて頂くことになりました。若輩者で経験の少ない私が務め上げることができるかどうか不安ですが、頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。また、園田先生1年間お疲れ様でした。これからは相談役としてサポートして頂くと幸いです。同門会の先生方にも色々とお迷惑をお掛けすることもあると思いますがご容赦ください。

平成14年は宮崎医科大学整形外科医局にとっても、同門会にとっても大きな変遷の時期にあると思います。

医局関連行事としては6月には日本脊椎脊随病学会が田島教授会長のもと開催されます。これは我が医局主催の学会としては最大であり、これまで以上の準備を必要とします。久保先生・後藤先生を中心に準備を進めております。また、同時に骨と関節の市民フォーラムも開催され、同門会の先生方、関連病院の先生方の助力なしでは成り立たず、色々な面での支援を頂かないとなりません。

5月には新たなメンバーとして数名の新人医局員を迎えることができますが、新入医局員ゼ

ロの科もある現状を考えると、我が整形外科は幸せであります。しかし明日は我が身かもしれません。今後さらに魅力ある医局へと発展する必要があると思います。

また、大学全体としては宮崎大学との統合問題があり、今後の動向次第では教官数の増減や予算削減などで医局運営自体に直接影響するであろうことが予想されます。附属病院も独立法人化への移行が決まり、医療制度改革と相まって病院経営を視野に入れた診療をせざるを得ない状況になるものと考えられます。

このようにさまざまな変革が起きようとするなか、荒波を乗り切るために一番大切なことは医局・同門会が一致団結しゆるぎない基盤を確立することだと思います。相互の信頼と協力、尊敬と感謝、そして思いやりがなければ成り立たないと思います。

色々とお堅苦しいことばかり書きましたが、大変な役を仰せつかったばかりですので余裕がありません。少しずつ頭を軟らかくして臨機応変に対応したいと思います。よろしくお願い致します。



近況ご報告

玉井 達二

皆さん、お元気でご活躍で何よりのことと喜んでおります。

今年は熊本では正月2日には小雪が降り、年寄りの身には寒さがこたえました。私は2～3年前から、80年余り使い古した心と体の修理に励み、すっかり御無沙汰してしまいました。

一昨昨年は図書館へ出掛けて、雨が降って来たので、傘をさそうとして、階段を一段踏み外して転倒。腕の皮をべろりと剥き、ふくらはぎの肉離れ。でも骨折をせずに済んで良かったと感謝し、あしを引き摺りながらも何とか自宅へ帰り、自分で応急手当をして病院へ。そして治療を受け、即入院といわれましたが、同門という我が儘な気持ちが顔を出し、“帰りたいたい！”と子供のように叫びました。しかし“先生、立場が逆だったらどうしますか？”との一声に“分かった。分かった”とそのまま入院。2週間余りで元気に歩いて退院しました。先ずは我が儘な心と老いた体の同時修理というところでした。

そして明けて一昨年は、人間の原動力・心臓の修理のために入院。「カテーテル・アブレーション」。股静脈からカテーテルを入れて終了まで3時間半。それから病室でジーと安静。“まな板の鯉”とは正にこの事かと合点。改めて患者さんの気持ちに思いを馳せました。これも何とか無事乗り越えて20世紀最後の年を送り、21世紀最初の正月を迎えることが出来ました。

そして2001年5月早々、又もや“心カテ”。こちらは前回の体験が生きて、まな板の鯉の心境も、するりと潜り抜けましたが、年にはかな

わない！と感じました。検査結果は大したことも無く、お陰様で何とか元気になり、地域リハビリテーション推進のお手伝いをほんの一寸したり、非常勤講師として講義をし、又研究会には“枯れ木も山の賑わい”と顔を出して、若い人々の発表を聞きながらエネルギーの補充をしています。

又、特別養護老人ホームへ通って来られる方々にお話をしていますが、70歳、80歳になってから新しいことに挑戦して、成果を挙げておられる方など、本当に素晴らしい方がおられ、“年は暦年ではない。心構えだ”と言うことを改めて教えられ、又「生きている間は青春である」という言葉を噛み締めています。

そして次元は違いますが、去年の11月には5年ぶりに、熊本の同門会のゴルフにちょっと顔を出して、“まだ暫くは何かいけるかな”などと考えながら、2002年を迎えました。

こんなことで最近、折角ご連絡を頂きながらも、果たせなかった宮崎訪問を、今年是实现したいものと精進しています。

今年は午年ですので、“馬齢を重ねる”と言う言葉を地で行くことになるかもしれませんが、“馬車馬のように……ではなく、馬の背中で揺られながら、ゆっくりとあちらを見たり、こちらを眺めたりして、楽しく過ごして……、などと考えます。

さて、85年間も使い、修理を重ねて来た心と体に油をさして、元気で皆さんにお会い出来ることを楽しみに、手綱を取りましょう。皆さんのご健勝をお祈りしています。



「長寿は難し」

木村 千 仞

5年前の日医新報に京都府立医大の後藤五郎名誉教授(94歳)が「長命は易く、長寿は難し」と題してエッセー風に寄稿されていたが、それによれば、長命の他に、健康かつ心豊かで、幸福であることを長寿と定義されている。言葉では当たり前であるが、その壁が85歳といわれると仲々難しいことである。

いま70歳以上の人は幼少期から満州事変、日支事変、大東亜戦争、第2次世界大戦、敗戦、引揚げ、家族分散、飢餓、貧困、伝染病のただ中をくぐり抜け、艱難辛苦に堪えて現在の日本を造ってきた勇者であり、ある意味では果報者であろう。ある意味では運が良かったとまわりの皆さんに「お陰様で」と感謝している。

最近の厚生省の調査(1997年)によれば、日本人の平均寿命は男77.5歳、女84.3歳と、カナダ、フランスを抜いて世界第1位に延びていて大変結構なことであるが、核家族化による独居老人のQOL低下と痴呆の数・期間の増加が大きな問題である。

年齢が高まるにつれ同窓会やクラス会の数が増え、情報交換の場となって淋しさも増してきた。そして物忘れがいつも話題となるが、とくに「リボアの法則」(Ribot, 1882)という加齢に伴う記憶の衰退である。医語事典の記載を読んでも難しい理論が述べられ難解であるが、簡単に言えば老化による物忘れの一つで、最近起こった事柄や複雑なものは記憶のはるか彼方に去り、逆に昔のことや自分の若いころの自慢話などは鮮明に、いくらか誇張されて覚えている、といったことらしい。先日も入院中の実兄の預金通帳と印鑑を預かって、置場所を忘れ銀行に支払い差止めの手続きをして10日位自宅と職場の部屋を3回位探して、やっと見付けた時の安堵と馬鹿さ加減にウンザリしたところである。慎重さが仇になった話で、つくづく老化の悲しさを思い知らされた1件である。

これから益々長命の難しさと対峙せねばならないだろうか。



旅の途中

川野 啓一郎

言い古された事ではあるが、人生とは旅である。旅に出て出会いがあり別れがある。目的地に向かって旅をするわけだが、そこに着くまでの間も、旅の大事な部分であるし、十分楽しめるものである。逆に目的地に着いてしまうと何か空しさを感じてしまうことがある。旅とは、恋愛感情に似ていると言った人がいた。旅路の途中にあるときは、あこがれ—恋愛感情—である。やがて、目的地に着く—結婚—と、すぐにではないが、やがてあこがれは終わり、違った感情に移っていく。

私が、親に連れられて名所旧跡を見て回った旅行を卒業し、初めて主体的な旅(?)なるものを経験したのは東京の大学に入って間もない頃であった。友人と二人で「ちょっと、ぜいたくな事をしてみよう」という話になり、日帰りで仙台へ行った。上野から特急で4時間、仙台の駅前の青葉通りにある喫茶店でコーヒーを一杯飲み、そのまま又、特急に乗って東京に帰った。

以来、しばらくは、友人と二人で行く旅が続いた。思い出に残っているのは、昭和43年、竜飛岬に行ったときの事である。計画は立てずに上野を発っていつの間にか、津軽線に乗っていた。単に、本州の最北端に行ってみようと話がまとまった記憶がある。三厩(みうまや)まで行き、そこから1日3便しかないバスに乗り行き着いた所、そこが竜飛岬であった。その頃すでに、実験的に海底トンネルの工事が始まっており、青年であった私は丘の上に立ち、海をへだてて姿を見せている北海道を眺めながら、トンネルが開通した未来の世界を思い巡らせていた。

1週間程東北を回り、東京にたどり着いた時には、ポケットに200円しか残っていなかった。金は無かったが、時間にはゆとりのある時代であった。

又、5月の連休を利用して、別の友人と、当時でも年代もののブルーバードに乗って南紀を一周したことがあった。費用を節約するために、車にフトン一式をのせ、コーラの原液を入れる大きな空ビンに2本ほど譲り受け、その中に水を入れ、生活水とした。南紀の海岸や吉野山のお寺の境内にフトンを敷いて、掛け布団にくるまって寝た。海岸では、潮騒の音を聞き、流れ星を数えながら眠りに入り、次の朝は波の音で目が覚めるという生活であった。いわゆるアウトドアの旅行形式であったのだが、一方、装備がいかげんであった為、危ない思いもした。トランクに20Lの予備ガソリンを詰め込んで、準備万端のつもりであったが、国道1号線を下る途中、旧箱根街道でカーブが続いたために、フタの部分からガソリンが漏れ、あやうくガス中毒になりかかった。又、那智駅の裏手の海岸で、フトンを敷いて野宿した際には、深夜、けたたましい音で起こされた。気がつくと、4~5人の、バイクにまたがった土地の若者が、浜に入り込んで駆け回っている。あやうく、轢かれそうになり、あわてて浜に上げてある船の影に移動した。

それから、若かりし頃の私は、旅にいろんな理屈をつけていった。旅を「自己修養」の場として捉え、「旅を通して、現在の自分と向き合う」とか何とか言ってひとり旅をするようになった。また、「日常性の打破」というような事を言って、

一時は必要最小限の会話しかしないように努めた事もあった。具体的な計画を立てず、前の晩に、次の日の予定を決めて行動するような旅が多くなったために失敗もあったが、逆に、得るものも多かった。

春休みに飛騨高山に行った時の事である。岐阜に下ろうとしたが、観光客も少なく、雪の影響もあるのだろう、冬季シーズンはバスを運行していないという。考えた挙句、ヒッチハイクをすることにした。なにせ初めての事で、なかなかうまくいかない。計画を変更しようかと考え始めた矢先に、1台の車が停まってくれた。中年のご夫婦の車で、車中で話をしていると、丁度、私くらいのお子さんが東京の大学へ行っていると、おっしゃった。人と人との触れ合いを感じた瞬間であった。ヒッチハイクについては、別の思い出もある。国家試験が終わり、1ヶ月程、あちこち歩き回った時の事である。対馬に船で渡って、ヒッチハイクをした際、若い主婦が運転する軽トラックに拾われた。ところが、しばらく走った後、主婦の「ギアが外れた！」という悲鳴とともに、車が停止してしまったのである。「車のギアが外れる」という言葉の響きに我が家での、古かりし時代の三輪車を思い出し、追憶にひたっていると、その女性は、たまたま通り合わせたタクシーを止め、これに乗れと言う。当時私は、旅に出たからには、タクシーを使わないという信条であったので、固辞すると、このあたりはバスも通らないし、交通手段は車しかなく、目的地まで歩くのは無理だとの事を言われ、止む無くタクシーに乗るはめになってしまった。ところが、タクシーに乗ってみると、運転手日く、先程の女性は自分の会社の社長の娘さんだと言う。結局、タクシーをヒッチハイクした形となってしまった。

国内だけではあったが、結構いろんな場所を

回っているような経験をした。その中で人の温か味に触れる機会も多かった。

宮崎に帰ってからは、このような旅とは縁遠くなってしまった。そして、結婚して私の人生もレールに敷かれ、更に、開業という最終のレールに乗った。

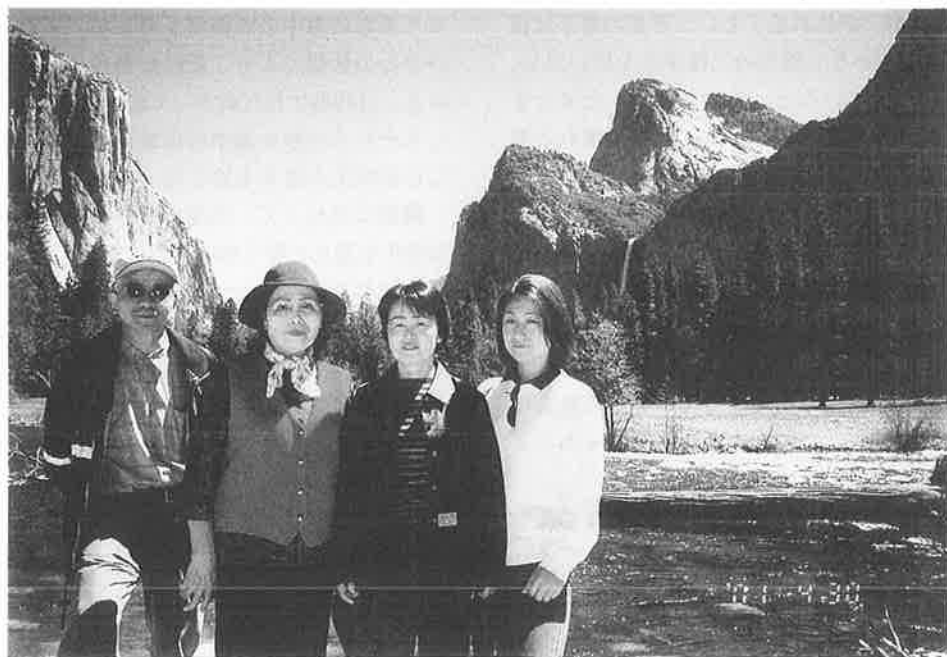
しかし、旅に関しては最近、新たな形で復活しつつある。この度、10年間いっしょに働いた職員とアメリカ西海岸を旅行した。ナース2人と厨房の職員と私の4人旅であった。英語がうまく通じず、苦勞の連続であったが、海外という目新しさよりむしろ、その道中が大いに楽しめた。他のツーリストから「変わった取り合わせ」と見られたこのメンバーとの旅は意外性があり、旅は道連れといった趣きを感じた。

更に、最近では、時々週末に日帰りで短い旅に出ている。行き先はうちの家内にも内緒である。自転車で宮崎駅まで行き、駅弁や缶ビールを買い込んで列車に乗り、適当な所で降りる。名付けて「週末寅さん」。悲しいかな、携帯電話という鎖で繋がれてはいるが、結構楽しんでいる。見慣れた風景であっても、季節や天候、乗り合わせた乗客の車中の雰囲気、そして、その時の自分の心の状態により、新鮮な驚きを感じる事がある。目的地にただ向かって走るのではなく、むしろそれらの旅の途中の出来事を、ゆっくり楽しむのが主と考える旅になってきている。

開業に当たって、当面の「目的地」であった10周年を迎えて思う事は、新たな患者さんとの出会いはもちろん、いつも接している患者さんに対しても、しかもありふれた疾患であっても、そこには新しい面での出会いがあるはずであり、それを大切にして行きたいと考えている。旅の途中にこそ、大いなる楽しみがあると思うからである。



南紀一周旅行－那智の海岸での朝の記念撮影－



ヨセミテ国立公園にて



整形外科10年を振り返って

末 永 治

てくてくとなだらかな道を歩いている。近くにもう1本の道がある。その道は急な坂道であり上へ上へと向かっている。下からどんどん人々が坂道を登っていくのが見える。たくさんの方が私を追い越して上へ上へと上がっていく。私はただなだらかな道を歩いている。時折上のほうからこっちの道においでよと手を差し伸べるものがある。私もその気になり差し伸べられた手にしがみつこうとする。何時の間にか手が離れまたなだらかな道をてくてくと歩いている。なだらかに見えていた道もだんだんと坂道になっていく。坂道の袂でもたもたしていると何時の間にか9年の歳月が流れ道は消えていた。

整形外科医になって10年、いろいろ考える。何をやりたくて医師になったのか？整形外科を選択した理由は何なのか？

人間を病いから解放したい。病いに苦しんでいる人を救いたいとの情熱が果たして自分にどれだけあるのだろうか？

少しでも地域医療に貢献できる様になりたいと思う。病院にかかると結構お金のかかるものである。医療費の問題は今後ますます悪くなっ

ていきそうである。果たして診察や治療を受けた人が納得して医療費を支払ってくれているのだろうか。診察や治療を受けて、満足して支払いをしていただける、その様な医師が私の目標でもある。未熟ではあるが、患者様は診察や治療を希望して来られているのであるからできるだけの事はしたいと思う。しかしやはり未熟である。先輩方に助けを求め、お世話になっている。

医師というプロ集団の中では、やはり個々人の能力、技術力、社会性、人間性にレベルの差がおきるのは当然であろう。スポーツの世界では、その差に応じて一部の者だけが認められていく。しかし、医師はすべて医師である。それなりのことが期待されているのである。かなりのストレスである。未熟な分ストレスも大きい。

整形外科10年を振り返って、“まだまだ修行が足りん”の一言であろう。しかし実際医者として仕事があり生活しているわけである。患者の視点を常に心にとめて行動していけるよう頑張ろう！



整形外科になって10年過ぎて今

10年生 矢野 浩 明

2001年11月末同門会事務局より原稿のテーマを2つ頂いた。1つは『医局旅行』、もう1つが『整形外科10年を振り返って』であった。このテーマをもらったとき、何を書いているのかははっきり言って困った。

整形外科医になって10年はたったが自分が1年目の時、想い描いていた整形外科10年生にはまだまだ達しておらず振り返るにはまだ早いのではないかと思ったからです。

だから振り返るというより10年たった今、今後何をすべきか考えたいと思います。

手術においてはいつの間にか筋鉤を引くことより筋鉤を引いてもらうことが多くなり筋鉤を引きながら先輩方に叱られ指導していただくことがほとんどなくなり、少し寂しい気もします

が、その代わり後輩達を厳しく、時に優しく指導していきたいと思う次第です。

仕事面以外では当教室の、目玉？である野球もまだ？何とか？1軍メンバーとして参加できている不思議さを実感しています。岡山大会で田島教授の最後の全国大会になるので老体にむち打ってしっかり頑張り、良い結果が残せればと思います。

医局では厚生係という大役を命ぜられているので、皆の幸せのために計画を立てしっかり頑張りましょうと思います。

まとまりのない話になってきましたがまだ10年、まだまだ学ぶことが沢山あり1つ1つしっかり身に付け、後輩達にその学んできたことを少しでも伝授できればと思います。





整形外科30年を振り返って

平部久彬

上記のテーマを頂いたが勉強不足で、とても振り返るところではないのですが、少しだけ思い出して書かせて頂きます。今後についても、まったく私なりの夢もどきを述べさせて頂きたいと思います。テーマと少し異なりますがお許しください。

約30年前大学を卒業した頃は医師国家試験も今ほどは厳しくなく医師数を増やす方向だったと思います。医局に入局した頃脊椎ではLove法、股関節ではR.B法、人工骨頭置換術、膝関節では人工関節置換術、慢性関節リウマチではDペニシラミンの投与、滑膜切除術、骨折では強固な内固定の使用、などが始められた頃かその前後だと思います。誤りがありましたらお詫び申し上げます。この頃記憶力の低下が著しい様です。現在では医学も更に進み、整形外科でも御存知の如くいろいろな分野で素晴らしい業績が上げられています。

私の経過としましては宮崎社会保険病院で故上塚先生からエンダーピンを教えて頂いたのが有り難いことでした。開業して約20年ですが、良し悪しは別として、私の1つの転機は学際的な分野である骨粗鬆症に関していろいろ考え超音波踵骨骨量測定装置を使用してみようと思ったことだと思います。

それを使用し、来院した患者さん、その付き添いの人の骨量を測定し、その後慢性関節リウマチの患者さん、中学生、高校生、血液透析を受けている患者さんも測定しました。そうしているうちに、この装置を使用した測定値とDEXAを使用した他の同一部位の測定値の相関に関しいろいろな数値があることを知りまし

た。疑問が生じました、この装置は踵骨のどの部位を測定しているのだろうか。

それを知りたくなり、この装置を日本に紹介した第一人者か、その方にまったく近い人に電話差し上げたところ、はっきりしないようでした。それで自分で調べてみようと思ひ検討しました。型紙と透視を使用したのですが、測定も同日に行うため1人に3時間ていど必要で中腰になることが多いため腰痛が生じました。学童から高齢者まで調べました。昨年、骨粗鬆症学会にてイブニングセミナーで測定部位がわからないとの意見がありましたので、厚かましく私のデーターではこうでしたと発言しましたところ、後日東京と神戸のメーカーの人が宮崎の私の医院までわざわざ来られたのには恐縮しました。その後の話ではプロジェクトはさらに進んでいるようでした。

ところで、同学会で宇宙飛行における骨粗鬆症についての講演があり、興味がありましたので慈恵会医科大学の宇宙医学部門の先生にお尋ねしましたところ宇宙ではCaの吸収がうまくいかないとのことでした。微小重力下の骨折はどうなるのだろうか、細胞の動きはどうなるのだろうかなどと考えることもあります。最後は夢みたいなことを考えて申しわけございません。現実には医療環境も厳しいので、夢みたいなことをいつまで考えられるのかと思っています。将来医局の先生に教えて頂ければ幸いです。研究でご指導いただいている田島先生、帖佐先生に御礼申しあげてこの駄文を終わらせて頂きます。有難うございました。

整形外科30年を振り返って

永 吉 洋 次

過去を振り返る年齢でもないが、私と同年の世代は会社を停年となり第二の職場で新しい展開を模索している。

PLAY BACK 30年

私は昭和46年に鳥取大学医学部を卒業し、鳥取大学整形外科教室に入局させて頂いた。

鳥大整形外科は初代・河野左宙教授、第二代・柏木大治教授、第三代・西尾篤人教授が主宰された伝統ある教室である。前年に西尾教授が九大に転任され前山巖教授が国立癌センターから赴任され新人教授としてははりきっておられた時期と重なる。

西尾教授には学生のポリクリでお世話になったが、当時のポリクリはのんびりしたものでウイスキーを飲みながらの抄読会、整形外科に行くジョニ黒が飲めるともっばらの噂であった。

母校での研修はありがたいもので、1~2年上の先輩が手取り足取り教えて下さった。“関節造影に使うurographinを脊髄に入れると死ぬぞ！絶対間違えるな！”“マスク麻酔で酸素と笑気を間違えて顔が真っ黒になりあわてたで！”医局での雑談がベカラズ帳となった。

30年前の整形外科外来診療は小児整形が主で、研修は先天股脱・内反足・筋性斜頸の三大小児整形外科疾患から始まった。

先天股脱はRiemenbügel法がやっと主流になったころ、年長児脱臼では徒手整復、LorenzのGips固定が行われ先輩の脱臼整復の名人芸に目を見張った。

内反足は徒手矯正、絆創膏固定、矯正Gips固定による治療、Orthopédieの原点を学んだ。

筋性斜頸はmassageこそなくなっていたが、病棟には斜頸Gipsを巻いた子供がたくさんいた。

研修1年目、日整会総会発表の手伝いは“教室における骨軟部腫瘍の統計”開講以来のカルテを引張だし病名・X線写真・病理組織の整理、新

人整形外科医にとっては最高の勉強、財産となった。

研修2年目、日整会総会発表の手伝いは“教室におけるペルテス病手術治療の予後調査”関節包切開術・頸部十字骨釘移植術・骨頭搔爬骨移植術などペルテス病に対する手術治療成績の予後検討であった。各手術治療の結果に有意差はなかったようであるが、西尾教授のペルテス病解明に対する熱意が伝わり、教授の偉大な業績に敬服した。

教室員も少ないため同時に基礎的研究も始まった。“注射による神経麻痺”の実験では家兎を使って神経微細血管の損傷・血流動態の研究。中部日本整災外で発表した。

前山教授にはBone Inductionの研究をするようにと指導をうけ、幼若家兎の骨端軟骨を筋肉内組織に埋め込み骨形成・骨誘導の研究をはじめたが、方法論がまずかったのか成果があがらなかった。

3年目は鳥取県立整肢学園での勤務となった。入園児は脳性麻痺が50人、小児整形外科疾患が50人位であった。ポリオ後遺症の手術や先天股脱治療後の補正手術、特にChiarie手術が積極的に行われていた。術後30年以上経った現在、これらの子供たちは元気で問題なくすごしているのだろうか。良結果を祈るのみである。

卒後4年目、教室での勉強を続けようと思っていたが、どこの大学も青医連闘争が激しく、大学院ボイコット、医局民主化、医局解体など教室が大いに荒れていたため、臨床医の道を歩むべく前山教授にお願いして郷里鹿兒島に近い県立宮崎病院に勤務させていただくことにした。昭和49年4月のことである。

当時の県立宮崎病院には岩切部長のもと田代・川越・甲斐・小林・徳久先生が勤務されていた。県病院は整形外科疾患の宝庫でいろんな症例が

全県下から集まってきていた。

岩切部長には主として股関節疾患を、田代先生には脊椎の手術を甲斐先生には手の外科の手術を川越・小林先生には一般外傷、骨折手術をと助教授、講師級の先生の直伝であった。今もって頭があがらないのは宜なるかなである。徳久先生とは年齢に近い関係もあり一緒にいろいろな手術をさせていただいた、兄貴分の存在である。

弓削先生は県病院から新規開業されたばかりで大繁盛、時々手術の加勢に伺ったがKüntcherの手術では電動リーマーがなく手回しのドリルで汗だくの手術であった。ギプス包帯も手作りで看護婦さんたちが粉まみれでガーゼにギプス粉をまぶしておられた。

ちなみに昭和49年時の宮崎市内の開業医は大野英男・大江幸夫・丸田 広・山口 守・山田文夫・弓削達雄・後藤一成・尾田 博（原田病院）の8人の先生方であった。

昭和49年6月には宮崎医科大学が開学、県立宮崎病院の敷地に準備室が建設された。

玉井副学長・木村助教授・伊勢助手が赴任され教室作りに尽力されていた。伊勢先生は県病院の勉強会にも参加され一緒に勉強したことを思い出す。

私の県病院勤務は7年間となったが鳥大の研究生の身分でもあったので、岩切部長の指導を受けながら学会にも発表してきた。

その中で雑誌臨床整形外科に投稿した“DICを併発したCrush syndromeの1治験例”は忘れがたい。Oozing・皮下鬱血・腎不全など今までに経験したこともない症例であった、臨床症状よりDICと診断し輸血・腹膜透析・ヘパリンの投与で危機をのりこえ救命できた。まだFDPの検査法もなく、FOYなどの治療薬もない時代のことでよく助かったものと思う。Crush syndromeもDICのI型ではないかと推察されている。凝固・線溶系からの解明が待たれる。

昭和55年12月県立宮崎病院を辞し宮崎市大塚町で有床診療所を開業することとなった。卒業10年目のことであった。

開業することは一人で対処する整形外科医の道を歩むことであり、日常よく遭遇する一般整形外科疾患の診断・治療のSpecialistになることであった。

よくみられる整形外科疾患に対する私なりの治療変遷をたどってみると。

鎖骨骨折：手術を必要とされる症例には全麻で対処してきたが、最近では全て斜角筋間腕神経叢ブロックで対応している。おすすめしたい。

肩鎖関節脱臼：K-Wire固定、Phemister 変法、Bosworth法などいろいろattackしてみたが、最終的にはKadenat 変法が良成績をみた。Bosworth法ではにがい経験がある、鎖骨遠位を烏口突起に普通の天児ボルトでとめたところ、術後ボルトがすっぱ抜け再手術となった。後でoriginal文献を読むとBosworthは特別の固定用スクリューを考案し使用していることがわかった。原著論文を読むことが大切であることを知らされた。

肩関節脱臼：整復についてはIppokrates 法・Kocher法からZeropositionがよりsmoothであること、手術についてはPutti-platt・Bristow・Boythev 法へと変遷した。

肘関節脱臼：スポーツによるけがでは肘内側支持機構破綻のひどい例では手術的修復が必要とされる。

橈骨遠位端骨折：徒手整復難治例に対し整復と同時に固定が可能なKapandji法は大変有用な治療方法として推奨したい。

Mallet finger：骨性槌指に対する石黒法はExtensionblockの妙味であり、その独創性を大いに評価したい。

下肢長幹骨骨折：整形外科医の最も得意とするところである。開業後10年は救急車で運ばれてくる骨折患者も多く積極的に治療してきた。その後、医師会病院や救急を引き受ける病院も増え長幹骨骨折を手術することも少なくなってきた。

天児プレート・AO・K-U・Küntcher・Ender釘を駆使してきた。最近では髓内釘もKüntcher からInterlocking Nail へ手術もminimal invasive surgery へと変遷し、1人でする手術からチーム医療へのbaton touch となった。

膝関節鏡：渡辺教授の開発された21号関節鏡は診断用から手術用関節鏡へと発展し、昭和60年頃よりVideoによる鏡視下手術へと進歩した。

開業してみるとスポーツによる膝のけがが多く、関節鏡は必携となった。早速、関節鏡、Videoを導入し膝関節内病変の診断と鏡視下手術を開始した。半月板部分切除・半月板縫合・糊・軟骨手術など多くの症例を治療することとなった。症例も500例となったのでまた発表の機会をもちたい。

前十字靭帯損傷に対しては腸頭靭帯や人工靭帯・膝蓋靭帯による靭帯再建術を試みてきた。しかし最近ではACL再建についてはアマチュアレヴェルのスポーツ選手には積極的に手術をする必要はないのではと思うようになった。

Achilles腱断裂：神中整形外科手術書にのっとり、教科書どおりBunnel縫合を行ってきた。最近インターネットで情報を得、手術をしないで治してほしいと希望の患者さんがみえた。私たちもいろんな治療法を駆使して患者さんの要望に答えなければいけない時代に来たようである。

開業して勉強の方が留守になるといけないとおもい、1年に1回は学会に発表することとした。

一人一人の患者さんを大切に、患者さんから学ぶという姿勢で診療に臨んできた。その結果が以下の如くである。

- 肩腱板損傷の治療経験(12, 1983)
- ゴルフによる有鉤骨鉤骨折の1例(12, 1984)
- 結核性腱鞘炎の1例(6, 1986)
- スポーツ障害の数例(1, 1987)
- 膝関節鏡診断と鏡視下手術の経験(1, 1988)
- Tangential osteochondral fracture の2例(6, 1988)
- 外傷性腓骨筋腱脱臼の2例(11, 1988)
- 小児Galeazzi骨折の2例(6, 1989)
- 肩峰骨折を伴う烏口突起骨折の1例(7, 1990)
- 外傷性膝関節血腫に対する関節鏡視(12, 1990)
- 骨形成不全症の一家系(1, 1992)
- 外傷性肘関節脱臼に伴う肘尺側側副靭帯損傷について(12, 1992)
- まれな部位に発生した離断性骨軟骨炎の2例(12, 1994)
- 橈骨遠位端骨折に対するKapandji法の治療経験(12, 1996)

膝蓋骨上極剥離骨折の1例(7, 1998)
死体腎移植後低リン症性骨軟化症をきたした症例について(12, 1998)

肩鎖関節脱臼に対するCadenat 変法の治療経験(7, 1999)

以上、宮崎整形外科懇話会

スポーツ外傷における関節鏡検査(8, 1988)
スポーツによるACL損傷の治療経験(1, 1989)
成長期野球障害の数例(3, 1991)

有痛性分裂膝蓋骨の治療経験(2, 1992)

野球による有鉤骨鉤骨折の1例(2, 1993)

半月板縫合の治療経験(2, 1994)

以上、宮崎スポーツ研究会

外傷性膝関節血腫に対する関節鏡視の有用性について：宮崎県医師会雑誌、16(2)、1992.

スポーツによる肘尺側側副靭帯損傷の治療経験：日整会スポーツ医学会誌、No3. Vol1, 14, 1994.

半月板部分切除後、脛骨外顆関節面に発生した離断性骨軟骨炎、整形外科46：11, 1995.

以上、雑誌投稿原著

宮崎整形外科懇話会に少しでもお役にたてたのだろうか、開業してからの発表だった。

整形外科30年、とりとめのないことを書いたように思います。駄文をお許し下さい。宮崎医科大学の発展とともに生きてきたような気がします。宮崎医科大学整形外科教室も木村教授、田島教授の薫陶のもと、多くのすばらしい業績を世界に発信し、立派な教室ができました。また、多くの有能な整形外科医を社会に送り出してこられました。もうすぐ30周年をむかえられることとなります。宮崎医科大学整形外科教室の益々の発展を祈念し、筆を置きます。





アメリカ留学中間報告 ～トレド大学に留学して～

黒木浩史

田島教授の御推薦を頂き2001年7月から1年間の予定でアメリカはオハイオ州、トレドにあるトレド大学工学部バイオエンジニアリング教室に留学しています。トレドはエリー湖西端に位置する人口300,000人ほどの中規模の都市で、飛行機でミシガン州のデトロイトから30分、イリノイ州のシカゴからは1時間の距離にあります。特に観光名所もなく退屈な町ではありますが、住民はとても友好的で物価も安く比較的住み易いところだと思います。

私の留学の目的は脊椎バイオメカニクスに関する研究で、ここではヒト新鮮屍体を用いた動作解析装置、万能試験機による生力学的試験ならびにコンピューターを用いた有限要素法による力学解析をはじめティッシュエンジニアリング教室と共同した生物学的人工椎間板（髄核細胞を生体吸収性のスポンジに絡めて移植し最終的に正常髄核を再生する）の開発に関する研究が行われています。

本教室の主任教授はVijay Goel先生で今年の1月にトレド大学に赴任されました。以前はアイオワ大学で18年間仕事をされており、そこには鳥取部先生と久保先生が留学されていました。Goel先生につきましてはすでに前任の先生方が述べられているとは思いますが、簡単に御紹介致しますと、先生は長年、生体工学研究に従事され特に脊椎バイオメカニクスに関する研究業績には多くのものがあります。2002年6月に田島

教授が会長として宮崎で開催される日本脊椎椎髄病学会に特別講演者として来宮予定で、その時に皆様も研究成果の一端を聞くことができるものと思います。

次に研究施設について御紹介致しますと、トレド大学ではコンピューターでの有限要素法による研究を行っているのみで、主たる新鮮屍体を用いた実験は車で10分ほどのところにあるオハイオ医科大学整形外科の研究室でなされています。Goel先生はオハイオ医科大学整形外科主任教授であるNabil Ebraheim先生と共にオハイオ医科大学にSpine Research Centerを開設されその施設長も兼任されています。私は新鮮屍体を用いた実験を行っていますので籍はトレド大学にあるものの殆どの時間はオハイオ医科大学の研究室で過ごしています。

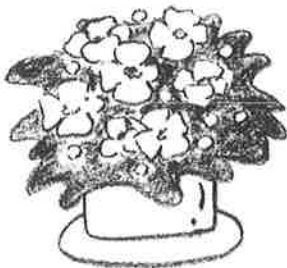
ここまでの半年間を振り返りますと、まずGoel先生自身がここにみえられたばかりということもあり実質的に今は研究を軌道に乗せるための準備期間といった感があります。実際、本格的に実験を開始したのは7月に私が赴任してからで、スタッフにつきましても現在はGoel先生以下、私そして8月に新たに入学してきたトレド大学の修士課程の大学院生3人、オハイオ医科大学の医学生1人の僅か6人です。私以上に研究経験のあるスタッフや博士課程の大学院生はいません。Goel先生は恐らくアイオワにいらした時のような調子で我々にいろいろと無理難題を申し付

けてきますが、ここには他に知恵を与えてくれるような経験者もいないため、ド素人軍団、肌を寄せ合い一致団結してちょっとずつですが研究をこなしています。私が今までに携わった研究には、1.腰椎に対する HARMS cageの有効性に関する研究、2.頰椎用Cage systemの開発のための基礎的研究、3.各種環軸椎固定術の固定性に関する研究、4.家兎髄核細胞を用いた生物学的人工椎間板の開発に関する初期研究、5.ひつじ腰椎を用いた各種骨補填材料の骨癒合に関する研究、などがあります。このように私は教室全体の殆どの研究に関係しその準備や屍体の手術を行わねばならない立場にあるため、今のところ自分自身の研究に関しましてはテーマも決まらずなかなか前に進めない状況にあります。しかしまだ残り半年ありますので他のメンバーにも協力して貰い合間をみて何か仕事ができればと日々前向きに考えています。是非、帰国した際には状況報告ではなく研究報告をしたいものです。

2001年のアメリカには、同時自爆テロ、炭疽菌事件、ニューヨークでの航空機墜落事故など多くの不幸な出来事がありました。同時自爆テロの9月11日、事件発生後しばらくしてトドでも大学のほか全ての学校は臨時休校、空港は閉鎖、

鉄道・長距離バスは運休、そして多くの人が集まるショッピングモール、動物園など公共施設も全て臨時休業になりました。2、3日はテレビもCMもなく全てテロ報道一色でした。またご存知のようにカレッジフットボール、アメリカンフットボールやメジャーリーグベースボールなどのプロスポーツ競技もしばらくの間中止され、全米で多くの祈禱会が催されました。炭疽菌事件に関しましても、郵便物がその媒介手段に用いられたためアパートに郵便局から郵便物の取り扱いについての注意書きが送られてきました。2001年末を迎えてもいまだ米軍とテロリストグループとの闘争は継続し、またブッシュ大統領は2002年を戦争の年と位置付けるなど本当に今の米国在留状況には一抹の不安を感じています。2002年は情勢が安定に向かい私も6月に無事帰国できることを本気で願っているところです。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さいました田島教授をはじめ教室員の先生方に心より感謝致しますとともに、いつも御支援を賜っております同門会会員の先生方に深くお礼申し上げます。また2002年が皆様にとりまして良い年となりますよう地球の裏側よりお祈り致しております。





趣味は将棋

松本 宏一

物理学教授平山文夫先生との出会いがそもそもの始まりでした。それは将棋愛好家の標準的出会いでした。とにかく一局指しましょうと口火がきられ、指し次いでいる内に、好きな者が4、5人居りますので寄り集まって将棋部を作りたいと思います、つきましては平山先生に部長になって頂いてよろしゅうございますかと、話はとんとんと進み宮崎医科大学将棋部ができました。

昭和51年の事です。当時まだ3期生までしかない出来たばかりの大学で、教授と学生との関係は濃密でした。平山先生は将棋部部長というより将棋部のパトロンになってしまったと言う方が良いでしょう。彼のボーナスはほとんど将棋部員の酒代に消えて行きました。プロ棋界の帝王米長永世棋聖も奨励会（将棋の学校）に入る時に家庭の経済状況が芳しくなくて、何方かの金銭的援助を受けていたと自伝記に書いてあります。文化に優しい目を向けていらっしゃる人達も少なくはありません。そして方や将棋界の宝物、方や田舎のへぼ軍団。比べて見るとこちらのパトロンの方が偉い？このような訳で、私は同級生達が麻雀に熱中していた頃にマイナーな将棋で時間を潰していました。

将棋部の活動が一番盛んだった時は10人位部員が集まり、3大学対抗戦（宮崎大学、鹿児島大学、鹿児島経済大学）にも特別参加をした事もありました。これも次第に廃れて行き、今では宮崎

医大にも宮崎大学にも将棋部はありません。只、また次の世代の人達、つまり今の小中学生には将棋をする者が増えているようです。これは皆様もご存知の天才、羽生善治のおかげです。車夫馬丁のするものと言われていた将棋の社会的地位を一気に引き上げたのが昭和初期に現れた木村義雄名人です。そして50年してやっと羽生が現れて再び将棋人気が上がりました。宮崎県でも近頃全国小学生名人が2人出ました。そして2人とも日本将棋連盟奨励会に入会しています。今、宮崎県から4人が奨励会に入っています。少しでも興味のある方は雑誌将棋世界の巻末に奨励会員の星取り表が乗っていますのでちらりと立ち読みでもして応援してやって下さい。もうすぐ宮崎初のプロ棋士が誕生するはず。又、将棋に強く関心のあるかたには「将棋の子」（平成13年、大崎著）と言う本をお勧めします。これは奨励会には入ったけれども、プロ棋士にはなれずに退会していった人達について書かれています。涙無くしては読めません。10歳台後半から20歳台前半の子供達の話です。私は高校時代や浪人時代の仲間達が受験に苦勞をしたり、何かを諦めていったりした様子を思い出していました。

近頃の私の将棋ですが、2年前から元奨励会員の星子寿三郎先生に教えてもらっています。但し四十の手習い、マジで強くなろうとすると厳しいものがあります。ゴルフに喩えるならばハ

ンデキャップ10を5とか4にする訳です。難しいのです。頭は堅くなる一方でありまして（股間は柔らかくなる一方ですが）昔の強さに戻るのが精一杯です。師匠にはとても言えませんが、ここらが限界かなと思っています。それから他に私が将棋を指している所は、子供将棋教室です。これは宮崎駅の裏側に白水社と言う牛乳会社がありそのビルの3階にあります。土日の昼間は子供達が集まっていますが、私が行くのは夜の部です。リーグ戦を行っていて、強いクラスと弱いクラスがあり、もちろん私は弱い方のクラスに入っています。強いクラスには現役奨励会員2名、宮崎県のタイトルホルダー数名がおり、

弱いクラスには奨励会を目指している小学生達と少々弱い大人達があります。小学生達は私の末の子と同じ年です。私も偶には子供達に勝つことがあるのですが、子供が目に涙を浮かべて「負けました。」と言う時の悔しそうな顔がたまりません。「頑張れよ。」と思いながら見えています。至福の時です。

私はモーツアルトに生まれることはありませんでしたけれども、せめてはサリエリに成りたいと思い、しばらくは将棋を習うつもりです。羽生や谷川の棋譜を見てこれはすごいと騒ぎたいのです。



魚つりいろいろ

麻 生 邦 典

ここ数年、SWLF（海のルアー釣り）にどっぷりとはまっています。釣り方はいたってシンプル、鉛で出来たルアーを海底まで沈めシャクリながらリールを巻く（ジキング）、又は木製のホッパー（水に浮く）を引きながらリールを巻く（キャストイング）などで、ターゲットは青物（カンパ

チ、ブリ、ヒラマサ、ロウニンアジ、イソマグロなどなど）食って美味しく、強い引きが楽しめる相手です。始めた頃は近海の釣行で満足してましたが、最近はトカラ列島まで足をのぼし遠征する様になってしまいました。黒潮ど真ん中では、日常では考えられない大物もバイトしてくる。



同行者の釣ったロウニンアジ51キロ、イソマグロ20キロ……なぜか私はサメばかりでした！



近海でも季節によりますが、コンナンけっこう釣れます。



近海のナイスサイズのカンパチくん達、美味かったです……

エサもいらず釣れるのは高級魚、少しの体力と、運があればどなたでもできます。ちょっとやってみたい方、紺碧の洋上で、巨魚とスタンドア



ップのファイトがしてみたい方、痩せたい方、連絡下さい……おまちしております。ちなみに今年度はトカラ列島の他、オーストラリアにサムソンフィッシュ（日本ではカンパチ）50キロオーバーをめざし遠征の予定です。

新規開業 ～平成13年を振り返って

長田 浩伸

平成13年3月1日に門川町にて診療所を始めました。門川町は県北の東白杵郡に属し、日向市と延岡市に挟まれた海沿いにある人口約1万9千の町です。国道10号線が町を貫いておりますが、宮崎市も大分市も車で約2時間かかり、陸の孤島と呼ばれています。自分が小さい頃から「あと10年すれば高速道路が延びてくる。」と聞かされてきましたが、現在でもあと10年にかかるといわれており、現政権のもとはやまることはないようです。そんな門川町の海沿いに診療所を構えました。五十鈴川の河口近くで波の音と潮のかおりに囲まれ、門川生まれの自分にとっては大変落ち着く環境です。

開院前後は諸手続きにぬかりはないか心配で胃が痛くなり、女性ばかりの仕事場もいまさらですが雇用する側となり、これもまた胃が痛いことばかり。診療では患者さんがみえてもあれがないこれがないであたふたすること度々。ご存じの先生方は察しがおつきでしょうが、私は

このでのストレスにはめっぽう弱くタケプロンがお友達でした。今ではエピソードのひとつでもご紹介したいのですが何もうかできません。つまらんことに悩んでいたのでしょうか。

ようやく開院して10カ月が経ち、少しは余裕が出てきたところです。最近では、専門領域の治療以外にも健診や予防接種にあたることになり、新鮮な気持ちで勉強しております。

私自身といえば相変わらずゴルフに勤んでいます。下手も相変わらずです。家内は育児と慣れない事務仕事で多少くたびれておりますが、持ち前の体力で乗り切ってくれるでしょう。長男は4歳になりました。日毎門川弁にみがきがかかり、口の悪さにめまいがします。開院の翌月には長女が生まれ、只今8カ月。まだしゃべれませんので可愛いばかりです。

思いつくままの近況報告でしたが、今後ともご指導ご鞭撻宜しく申し上げます。



新 規 開 業

結 城 祥 一

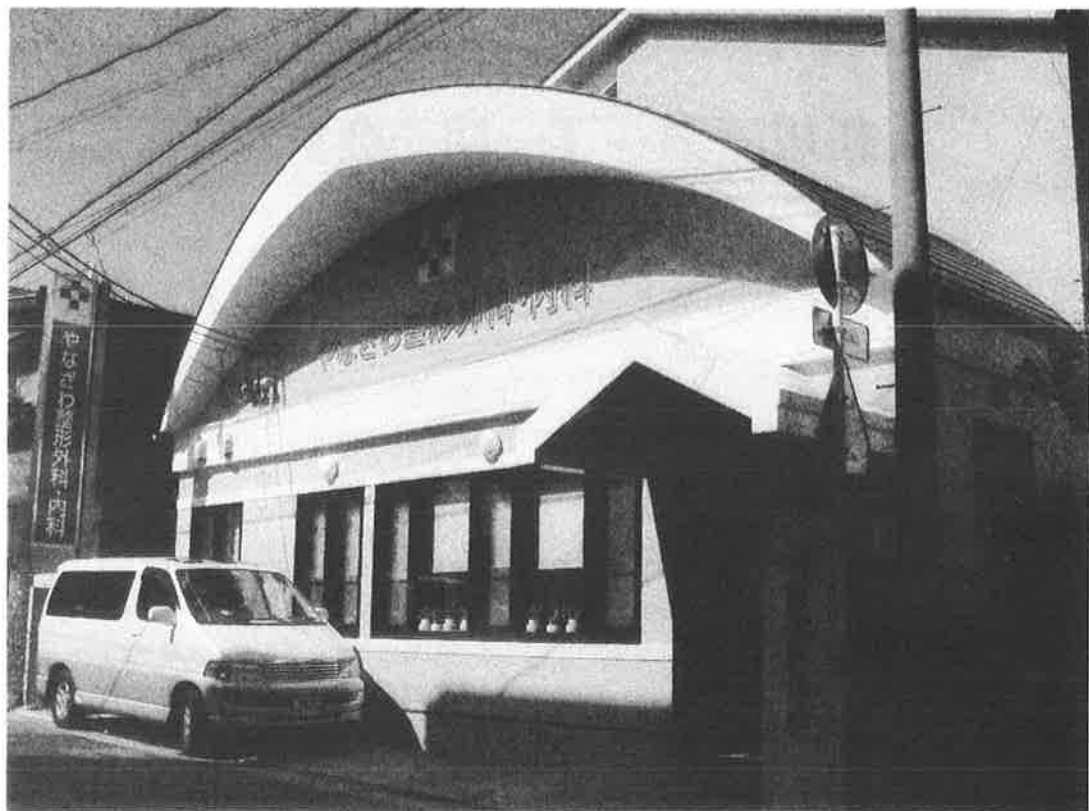
昨年5月に延岡市柳沢町に開業しました。開業目的は、この地区の住民の方から、多数の声があがったからです。診療所の案内は、ほとんど行いませんでした。この地区の方々には、地元の回覧で開院時期が通達されたので必要は無いと考えました。スタッフは、17名の無床診療所です。(2階の事務室に当直で泊まり込みながら)朝、7時に外来の戸を開け灯をいれます。診療開始は9:00からです。

開業から約10ヶ月をふり返って思うことは、この地区には、高齢の方が多く、特に整形外科を必要としているわけではなく、必要な科の一つが整形外科であること。整形外科だけでは、患者さんの要求を満たすことは難しく、内科が中心であり、自分の体のことを相談できるところを探している方が多いということがよくわかってきました。研修医になったつもりで、特定疾患、慢性疾患等も再度見直しを行い、できる限りのことを行いたいと思い一つずつ内容の充実を図っています。昨年末からは、エコーを導入し、四肢エコーはもちろんのこと、腹部エコー検査、心エコー検査を行い、疾病の早期発見、フォローアップを行い、近隣の医療機関と連携を取る形で医療体制を整えつつあります。小さい無床診療所だからできることを行いたいと考えています。ジェネリスト、スペシャリストと考える人がいます。ジェネリストのスペシャリストであることができれば……と思います。

開業して勤務医と一番の違いを感じるこ

は、診療報酬請求でした。数ヶ月後に送られてくる、書類を見ると当然のことだと思っている医療行為は、ほとんど認められないことが多いこと。社会保険局に何度も質問に行きました。社会保険局では、いつも親切に解釈、考え方、またこちらの問題点の指導を解説本を示す形で教えていただきました。最近では、症状詳記、注記、点数のチェックは欠かさないようにして、今も毎月、指導を仰ぐ様にしています。処方箋は、自作のアプリケーションで発行していますが、ORCAも進みつつあることですし、電子カルテもそろそろ導入を検討しています。4月から更に厳しくなりますが、現在のスリムな状態を保ちながら、柔軟に対応して行きたいと考えています。

まとまりの無い「新規開業」になりましたが、このテーマを載いて自分をふり返り、これからを見つめる良いきっかけとなりました。いま、心に浮かぶのは、私のわがままを聴きいれてくださった田島教授、親身に研究、整形のご指導を下された帖佐助教授、いまもいろいろと研究のトラブル等相談を受けてくださる鳥取部先生、さらにご指導を賜る同門会の諸先輩の先生方、心から尊敬と感謝でいっぱいです。この様なすばらしい同門会の諸先輩の先生方の中、いま、延岡地区で24hrs.の救急医療に市原先生が医師会長として取り組まれています。「延岡市民が安心して夜間過ごせるような医療体制を築く」その趣旨に賛同する一員として微力ですが生きて行きたいと思っています。



新規開業・・・『一期一会』・・・

作 良 彦

同門会の皆様ご無沙汰してあります。

平成13年5月15日宮崎市大島町国草に『作整形外科』を新規開業しました。開院して6ヶ月が経過しました。元気にがんばってます。

開業までの苦労話は私の場合も大変でしたが、これまでの諸先輩方の同門会誌を参考にしてもらいまして、新規開業に対する思いを書いてみます。

わたくしがここ大島町国草に開院したのは、父正彦が50年間の一時代をともに過ごしてきたこの地区の患者のために微力ではありますが、何らかの貢献が出来ればと考えたからです。

ある日の診療中、患者さんから「おとうさんは、お元気ですか？昔、おとうさんに診てもらっていたんですよ。どんなに夜遅くだろうがいつでも往診に来ていただいて…。いまでも感謝しています。」と、言葉をかけられ診療中なのに目を潤ませて、ここで開業して良かったとしみじみと感じました。これまでの診療では、『一期一会』を座右の銘として、患者一人一人を診させていただいたと思っております。これからもその姿勢を続けてまいる所存です。毎日楽しく診療をさせていただいております。

『一期一会』・・・感謝の気持ちをこめて・・・

僕はけっして知識があるわけでもないし才能があるわけでもありません。だから一生懸命にがんばります。

ひとり患者さん一つ一つの症状に対してここをこめて診ていきます。きっとこれからもそうやって患者さんと接していきます。

この医院を通じて多くの患者の方々と心の輪を広げてゆけたらそれはとても素晴らしいことだと思います。

12月1日に新しいバス停として「西田橋クリニックタウン」ができました。同月、小学校の時の同窓生が同窓会を発足してくれました。そして、3月には隣に“こざわ内科”が開院する予定です。

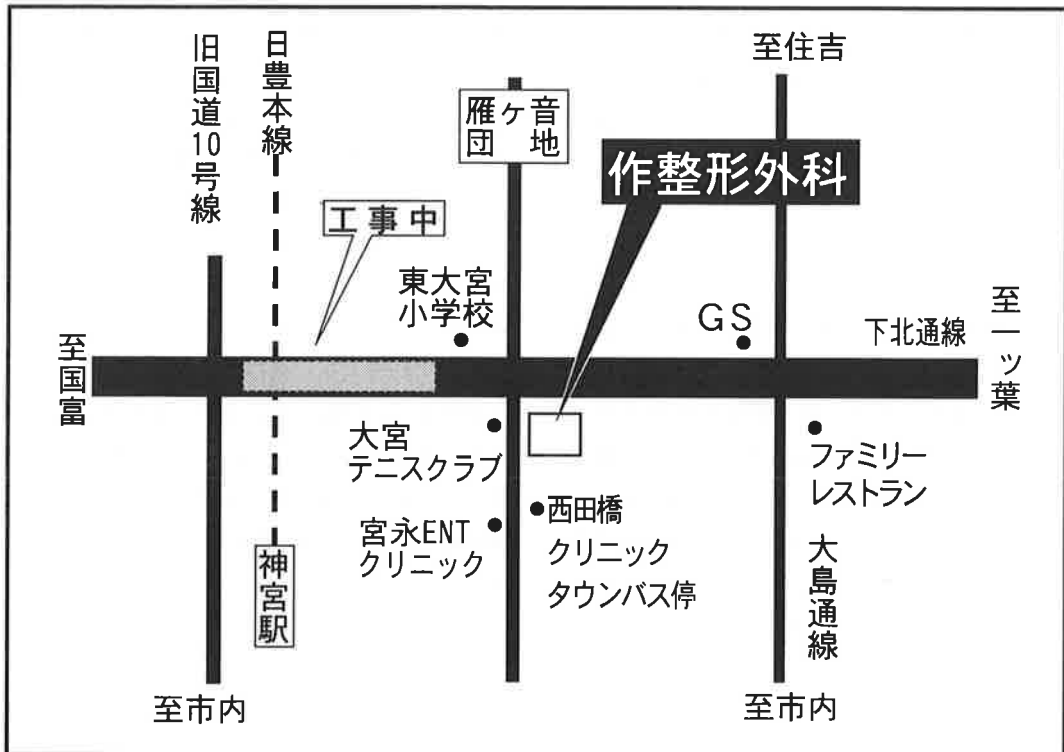
最後になりましたが開業するにあたって本当に多くの方々に支えられてここまで来れたことを感謝します。本当にありがとうございます。10年後も20年後もこの感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思っております。

これからも末永くご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

ありがとうございました。



ご 案 内



野球大会報告

一軍キャプテン 福元 洋一

昨年の西日本整形外科野球大会は8月4日に沖縄で行われた。我が1軍チームは前年の雪辱を期し打倒琉球大学をめざし大会に臨んだ。前日にはレセプションが行われ、抽選会では九大、久留米大が入った厳しいパートになった。

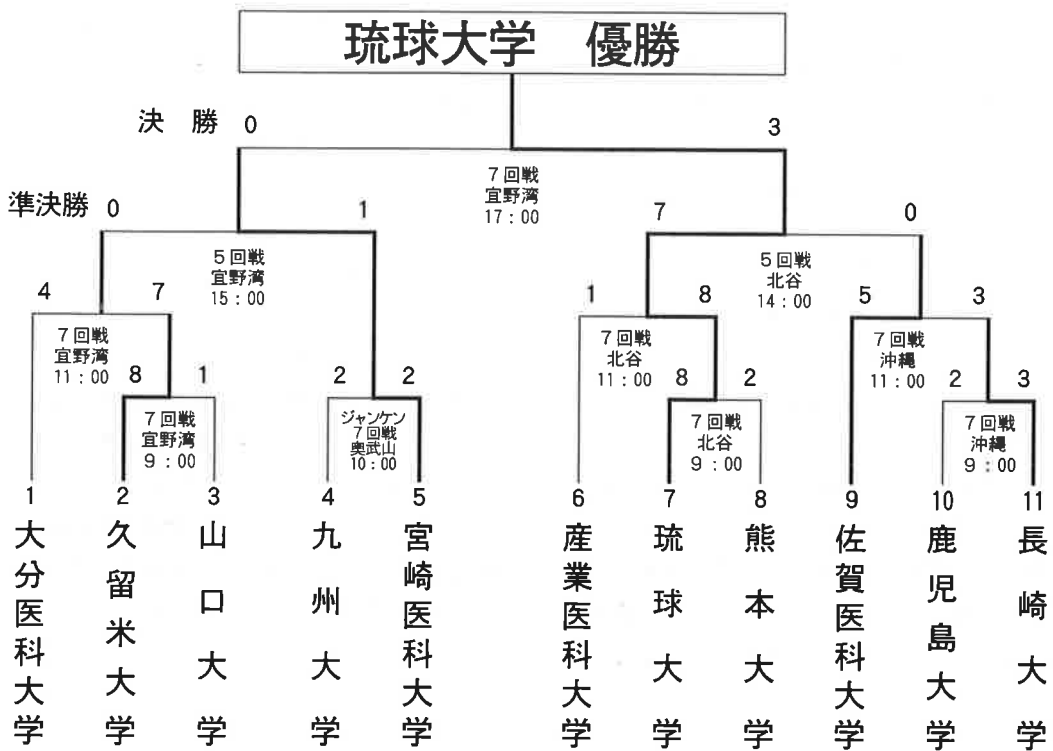
試合当日は晴天で朝から日差しが強く厳しい暑さであった。1回戦の相手は九大で、最近では厳しい戦いではあるが負けていない相手である。序盤は投手戦で展開するも3回に2点を先制されてしまった。以前であれば先制されるとそのまま意気消沈して負けてしまうパターンが多かったが、今のチームはねばり強くあせることなく、3回に松元先生の犠牲フライと4回に松岡先生のスクイズで同点とした。しかし、このまま時間切れとなり勝負はじゃんけんとなった。この時、前回の全国大会でじゃんけんを負けたことが脳裏に浮かんだが、今回はみんな調子よく簡単に勝ってしまった。2回戦は久留米大学と対戦した。久留米大学とは最近あまり対戦がなく未知の部分が多く不安な試合であった。試合は序盤から息の詰まる投手戦で松岡先生が力投するも相手のピッチャーの調子もよくなかなかチャンスもつかめなかった。松岡先生、矢野先生の継投で何とか相手打線を0点に押さえ、またもやじゃんけん勝負かと思われた

最終回到ドラマは起こった。これまでノーヒットノーランに押えられていたが、1アウト後福嶋先生がレフトオーバーのツーベースを放った。ここでバッターは押さえの切り札としてピッチングで活躍していた矢野先生であった。まだまだ衰えを知らぬ矢野先生は粘りに粘った7球目を見事にレフト線ぎりぎりをやぶる劇的なツーベースでさよなら勝ちを収めた。決勝戦は昨年の敗れている宿敵琉球大学であった。これで勢いに乗るかと思われたが、死力を尽くして勝ち上がってきた我がチームに気力は残っておらず、また試合前に相手のピッチャーが真夏の炎天下のなかジャンパーを着て走り続ける姿に圧倒され、序盤こそ0対0と健闘したがその後小刻みに得点され3対0と惜敗してしまった。しかし、全国大会の切符は何とか手に入れることができた。翌日はみんなそれぞれに沖縄を満喫することができた。

最後に野球大会に気持ちよく送り出してくれた諸先生方に感謝し申し上げ、また全国大会での諸先生方のご協力をよろしくお願い致します。全国大会では松元キャプテンのもと初の全国制覇に向けてがんばりたいと思います。どうもありがとうございました。



トーナメント表【一軍】



野球大会を終えて

二軍キャプテン 渡 邊 信 二

平成13年の西日本整形外科親善野球大会？は常夏の沖縄で開催されました。真夏の沖縄はそれはそれは結構なもので降りそそぐ太陽がジリジリと音を立てて肌を焦がし、その名残が今でもシミとして刻み込まれています。

我々は開催日の金曜日に福岡経由と直行便の2グループに分かれ沖縄入りし、宿泊場所とレセプション会場である“かりゆしアーバンリゾート那覇”へ到着しました。その日は近くのソーキそば屋や国際通りなどを観光し午後5時30分からのキャプテン会議と次期開催大学である久留米大学の永田先生の講演を聞き、いよいよレセプションと抽選会です。二軍は開催が沖縄である関係で参加が少なく8校でした。この時はまだ次の日に起こる無残な結末を知らずに“3回勝てば優勝か”とか“決勝のオーダーをどうしようか”とかを考えておりました。そうこうしているうちに抽選が始まって長崎大学との対戦が決まりました。ここでも“2回戦で琉球と当たるな”などと強敵の長崎をほとんど無視状態です。

試合当日、二軍は参加チームが少なく午前9時からの試合開始のため、いつもより遅くバスに乗り込み那覇空港の南にある西崎球場へは8時ごろ到着しました。グラウンドに出ると前日の雨（スコール？）のせいで内野のいたるところ

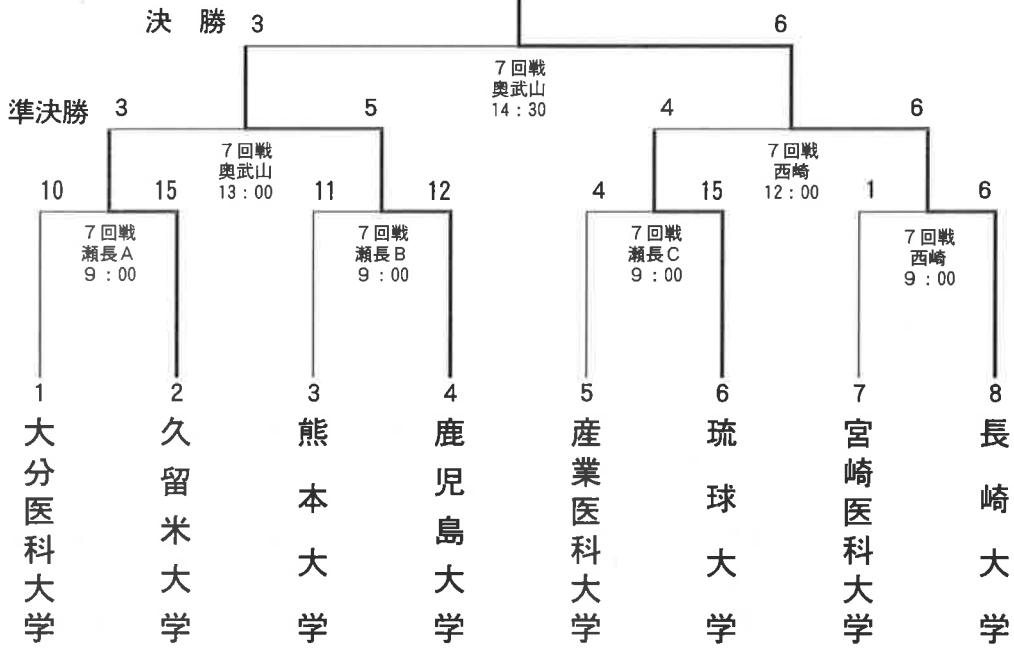
に水溜りができ、長崎大学の先生たちと一緒にグラウンド整備を行うことになりました。この時点でテンション低下モード突入、さらに審判が遅れるとの連絡有りさらに低下、結局試合は予定より30分程遅れてスタートしました。

我がチームの先発は柳園先生、いつもの投球術でバツバツと三振の山を築く……はずだったのがいつのまにか相手側のスコアボードに0以外の数字が書き込まれています。うちの打撃陣からすれば相手にハンデを与えたようなもの、そのうちに逆転するわなどと気楽に考えていると、なんかおかしい、打てない。ピッチャーを変えても相手側に点数が加わるだけ、あれっ、あれっ、負けるの？結局、ヒットらしいヒットは紅一点の小松奈美のセンター前だけで1点を入れるのがやっと。やってしまいました。屈辱の1回戦負け、教授に怒られるのが怖い。

色々負けた原因（口実とも言う）を考えると、影のエース黒木先生、全てこなせる樋口先生、剛打を誇る江夏先生、機動力野球の要村上先生が欠場しチームの層が薄かったかな？自分らの力を過信しすぎたかな？等が挙げられます。来年の久留米では万全な体制を整え返り咲きを狙いたいと思います。以上簡単ですが野球大会の報告とさせていただきます。

トーナメント表【二軍】

長崎大 優勝



平成13年同門会ゴルフ大会報告

平川俊一

同門会ゴルフ大会は12月2日曜日に開催されました。場所は前年と同じく観光地青島の高台にあります青島ゴルフ倶楽部でした。このゴルフ場はホールの各所から日向灘が見渡せませす。18番のティーグラウンドに立ってフェアウェイと反対方向に目を向けますと、一ツ葉のなだらかな弧状の海岸線の向こうに遠くシーガイアのホテル45が見えます。果たしてこの展望が皆さんの目に映ったかはいざ知らず、勇士19名が集いました。前夜の忘年会の影響で奈良漬状態の人もいたようですが、幸いにして一名の遅刻者もなくスタートして行きました。

プレーの詳細につきましては私自身が自分のことに精一杯で詳しくは語れませんが、前半はどうあがいてもボギーペースにも及びませんでした。上手な先生方は巧妙に張り巡らされた池、クリーク等の罠にも邪魔されずにプレーして行かれますが、一組全員皆そろって池の端で水面を見つめている図や、悲鳴、フォアの声など、冬の寒空に一層寒くなるような光景が見られました。私も2個のボールに寒中水泳を強制しました。

皆さんがハーフを終え食堂に引き上げてきたときに衝撃が走りました。さざ波の如く波紋が静かに広がって行きました。いつも仕事に「忙しい、忙しい、練習する暇もない」とぼやいているC先生が、ハーフ48で上がって来ているのです。前半そのスコアーに負けているものは私を含めて9名おりました。これは大変なことになりました。このまま一日を敗北で終わるもの

なら、来年のこのコンペまで一年間何を言われ続けるか分かりません。繰り返しますが本当に大変なことになりました。昼のビールも二杯目は我慢して、気を引き締めて一層真剣にやらねばなりません。午前中は、一体何が悪かったのでしょうか。大先輩の渡辺先生と一緒に組だったのできっといい所を見せようとしてリズムが崩れて早くなっていたのでしょうか。反省点が頭の中をグルグル回ります。さあ、後半は頑張るぞ。

個人的な反省はさておき、5組の先生方がプレーを終えてコンペルームに上がって来ました。全員の成績は、70台1名、80台4名、90台8名、100台5名、それ以上1名とほぼ昨年同様の分布（正規分布？）をしておりました。C先生はやはり落ち着くところに落ち着きました。但し、どうも若い連中が良いスコアーにシフトしつつあるようです。女房、子供を省みず驚異的なラウンド数をこなしている人もいますが、その内に天罰が下ることでしょう。

ひがみはさておき、成績の方は
ベストグロス78 益山松三先生

優勝、準優勝はダブルペア方式ですので本会世話役の平川、戸田となってしまいました、大撃墜をかってしまいました。このお詫びはもう一年世話役させていただくと言うことで、お許しを頂きたいと思ひます。

また次回もたくさん先生の先生のご参加をお待ちいたします。



第4回同門会テニス大会結果

福田 健二

場 所：宮崎海浜エントランスプラザ内テニスコート
参加者：川野(啓)、松本(英)、神菌、尾田、
谷畠、福田

平成13年11月23日（勤労感謝の日）、雲一つない絶好の日和の中、第4回同門会テニス大会が開催されました。今回は参加者が少なく、寂しい大会になるのではと心配しておりましたが、友情参加の高妻先生（県病院）の活躍で試合は盛り上がり、接戦の末、松本（英）先生が2年連続優勝を果たしました。

途中まで尾田先生が優勝かと思わせましたが、最後の最後で気が抜けたのか、パートナー

に恵まれなかったのか（私その時パートナーでした…）同点で2位に終わりました。神菌先生、谷畠先生が体調不良の為、日頃の力を発揮できなかった中で川野（啓）先生が中年パワーを炸裂させ、ミラクルショットで相手を翻弄する場面では圧巻でした。（ちなみに、その時のパートナーは私でした）

何はともあれ怪我もなく無事に試合を終了し今大会の為に新たに作った優勝トロフィーが松本（英）先生に授与され、大会を終えました。

次回は多数の参加をお待ちしています。





専門医試験を終えて

山本 恵太郎

専門医試験を終えてはや1年。いざ1年を振り返ってみて変わったこと???……ウルトラマンガイアがウルトラマンコスモスに（テーマは怪獣をも守る優しさ。怪獣を倒すシーンが少なくなり、これもご時世への警告かも）。仮面ライダークウガが仮面ライダーアギトに（しかし、内容がストーリー性を持たしているため子供は格闘シーンのみ観ているが）、次は仮面ライダー龍騎だそう。未来戦隊タイムレンジャーから百獣戦隊ガオレンジャーに（戦隊シリーズも秘密戦隊ゴレンジャーから数えて25作目とは凄い）。デジタルモンスター02がデジモンテイマーズ（カードの売り切れ続出）へと変わったが、変わらなかったアンパンマンやポケモン（さすがにポケモンは下火になってきたがアンパンマンは根強い人気）を含め、うちのチビ三太郎の興味は変わらず、毎週ビデオに撮って観ている。その中でヒーローがやられる度にどんどんと強く変化していき、進化型が発売される度におもちゃの買い足しが増えてきて、おもちゃ業界の民にはまっている一家族と化してしまった（ちびっ子がいる家庭はわかりますよね…）。

本題からそれてしまってもすみません（原稿を書いていたらどうしても残しくなってしまう）。反省してもう一度振り返ってみます。

1) 申請症例：

医師会病院で鬼のように施行した大腿骨頸部骨折の症例を1番目に挙げて提出するも、今回か

ら選定基準に加えられていた3ヶ月以上の経過観察が不十分であった（医師会病院の性格上長期入院はできず、ほとんどが転院になる）ので、外勤先にR元医局長から、「スグキインサレタシ」の連絡が入り慌てて戻り再提出をした。一番楽な症例だったのに…。

2) 試験勉強：

学生の頃から1回目の試験はとりあえず“様子見”の癖が染みついている、なかなかモチベーション（最近サッカーの試合で良く耳にする言葉ですね）があがらず、その上医局内随一の楽道家の某濱田博士が会うたびに“大丈夫やっどー。おいも年明けまでなんもせんかったでな。1回終われば楽勝やっどー。”を連発してくれました（前会の同門会誌を見るとやはり誇大広告であった。JAROにチクってやろう）。結局、家ではどうもやる気がおこらず、何回かは本を持って帰ったのですが、子供達を寝かしつけるといいながら、自分も寝てしまうあり様で、それを見かねたS前医局長の配慮のもと年末からは当直ごもりで一気にスパートしました。

3) いざ試験：

前年度からお台場が会場に定着。風が強くむちゃくちゃ寒かった。後日、C助教授から「筆記試験が終わった日は何しよったんや。飯でも食べに連れて行ってやろうと連絡待ってたんぞー。」と言われた。是非、試験前に言って欲しかった。一人で寂しくもっていたのに。（平成

6年度新入医局員はオンリーワン。一緒に受けた深野木姉（向井先生）は家族同伴。なんと余裕でも羨ましい。お台場は嫁さんや子供達が好きそうな所がいっぱいあったんで。）

4) 自己採点：

自分にとって今までマークシート試験方式には数々のトラウマがあったが、今回は初っぱなの基礎の問題を7、8問連続正解を得て、初めて安心して自己採点ができやと溜飲を下げた思いであった。しかし、自分がやっていきたい分野の問題を落したときは自惚れではなく本当にショックでまだまだ…と反省させられた。

5) 後日：

認定書が郵送されて来た。以後、学会時に1,000円札が無くなっていく。

6) 本日：

両隣で黒沢先生と谷島先生が真面目に勉強を

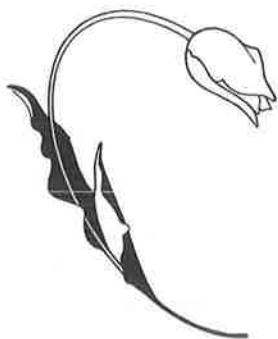
しています。いつも隣で邪魔をして申し訳ありません。明日出発です。頑張ってください。…っもう遅いか。来年受験の先生頑張ってください。原稿書きが遅れて、温ちゃんごめんなさい。

7) 最後に：

田島教授、C助教授をはじめ、とても気を遣っていただいた2人の医局長謙グループ長であるSならびR先生、勉強できる当直先を分けてくれたY先生や今まで縁のあった先生方に今回の件も含め宮崎に残って良かったと感謝申し上げます。これからも何卒よろしくお願い致します。

追伸：

提出する10症例に関して今回から変更がありました。8つの大項目を必ず各々選ばなくてはなりません。表を添付しますので、以後受験される先生方の参考になれば幸いです。提出症例だけは慌てることないように早めに集めましょう（初めてまともな事を書けた）。



疾患分類表

I. 外傷一般 (救急・災害)

新鮮開放創
鎖骨骨折
肩関節脱臼
上腕骨骨折
前腕骨骨折
骨盤骨折
股関節脱臼
大腿骨頸部骨折
大腿骨骨幹部骨折
膝関節周辺骨折
下腿骨骨折
足関節骨折・脱臼
距骨・踵骨骨折
偽関節・変形治癒骨折 など

II. スポーツ外傷・障害

肩鎖関節脱臼
反復性肩関節脱臼
膝関節靭帯損傷
半月板損傷
足関節靭帯損傷
離断性骨軟骨炎
Osgood - Schlatter 病
野球肘・肩
槌指 など

III. 小児整形疾患

脳性麻痺
筋性斜頸
分娩麻痺
先天性股関節脱臼
Perthes 病
大腿骨頭すべり症
先天性偽関節
先天性内反足
骨端線損傷
小児骨折
内反肘・外反肘
脊柱側弯症
多・合指症 など

IV. 関節・リウマチ疾患

変形性股関節症
変形性膝関節症

神経病性関節症
慢性関節リウマチ
肩関節周囲炎・腱板断裂
大腿骨頭壊死 など

V. 脊椎・脊髄疾患

脊椎骨折・脱臼
脊髄損傷
腰椎椎間板ヘルニア
腰椎分離 (すべり) 症
変形性脊椎症
脊柱管狭窄症
脊柱靭帯骨化症
化膿性・結核性脊椎炎
強直性脊椎炎
脊髄腫瘍 など

VI. 手・足の外科 (神経・筋・血管)

手関節部骨折
手指の骨折・脱臼
指関節靭帯損傷
手の腱損傷
神経損傷
腕神経叢麻痺
絞扼性神経障害
癭痕拘縮・Dupuytren 拘縮
Kienböck 病
Köhler 病
外反母趾
尖足 など

VII. 腫瘍・炎症性疾患

軟部腫瘍
骨原発腫瘍
骨転移腫瘍
骨髄炎
関節炎 など

VIII. 骨代謝・骨系統疾患

骨粗鬆症
骨軟化症
骨系統疾患
痛風・結晶性関節炎 など

日本整形外科学会による上記の [疾患分類表] 73 の外傷・疾患に、さらに頻度の高いものを加えた形で構成。(整形外科専門医をめざすための経験すべき外傷・疾患 88/MEDICAL VIEW より)

認定医(専門医)試験



認定医試験をおえて

向井由姫

昨年、1月東京に整形外科認定医の試験を受けに行きました。普通は、同期の先生同士で受験に行くか、一人で受けに行くかでしょうが、わたしの場合は、主人が仕事を休んで（主人は精神科医で、久留米医大の精神科は夏休みを2週間取れることになっており、その休みをそのときまで半分保留していてくれて、）ついてきてくれました。なぜかとうとう、8ヶ月になる息子がいて、私の試験中に子守りをする為でした。

試験会場の東京日航ホテルはお台場という、なかなか良いところにあり、到着するなり、目覚ましテレビでみるフジテレビに遊びにいきたくなりました。その気持ちを押しえ最後のまとめをおこなおうとしたのですが、案の定、小悪魔が騒ぎ出し、寒い中主人が何回か息子を連れだして子守りをしてくれました。しかし、恐怖は夜で、家の小悪魔優正君はまだ夜泣きが続いている最中であり、その日も母の状況を全く理解せずじゃんじゃん夜泣きしておりました。

さて、その次の日眠い目を擦りながら筆記試験をまず受けました。過去問の問題集が出版されておりますが、それをしていたらまず大丈夫ではないかという問題でした。で、その翌日に口頭試問であったのですがこれが大変でした。

形式は、ホテルの客室の廊下に受験生は一列に並びます。合図と共に部屋に入りそのツインの広さの部屋で3人の審査の先生に時間内で主に自分の症例報告に関して、一般的な事から重箱の隅をつつくようなことまで、根掘り葉掘り聞かれることとなります。優しい先生もいらっしゃるとうまく答えられない時は、助け舟をだしてくださることもあったのですが、怖い先生もたまにいらっしゃるため、緊張しました。

しかし、あっと言う間に試験はおわりました。で、終わって思ったのですが、口頭試問は緊張しますが、必要以上に緊張しなくても試験で合格点をとっていたら受かるのでは？と思いました。勝手な私の推測ですが…。症例報告のレポートを作るにあたっては、結構時間がかかりました。症例を決めて、そのレントゲンを集めて、カルテを見なおして規定の用紙に書くこととなります。症例となる患者のいた病院に近ければ簡単に入手できますが、私の場合は久留米だったのでレントゲンを見にくるので一苦労でした。

こんな状況においても、合格できたのは主人と小悪魔優正のおかげです。家族の暖かな声援に感謝し、また、今回勉強したことをこれからの診療に役立てていけたらと思いました。

厚生課と医局旅行

(お泊まり忘年会)

厚生課長 矢野 浩 明

2001年1月に園田医局長より任命された役職は厚生係(2期目:別名厚生課)だった。厚生係の仕事は昨年経験し厚生の意味(注:前年度版同門会誌参照)をしっかりふまえての2期目だったので昨年以上のものをと言う気持ちで任務の遂行にあたった。最初は秋ぐらいに長崎ハウステンボスの予定であったが日程の調整がつかず年末の忘年会と一緒にと言うことになり計画を立てることになった。

以上のような経緯もあり21世紀最初の医局旅行(お泊まり忘年会)は12月22日~23日の日程で鹿児島県志布志の『チョーイと行きましょ出掛けましょ』で有名な大黒で行うこととなった。

今回の旅行は5家族を含む総勢42名の参加で、バスの準備はしたものの特に観光は予定せず大忘年会をメインに計画した。幹事としては『楽しくなければ宴会じゃない』をテーマにこの企画に取り組んだ。

出発に先立ち大宴会に必要な物品の購入のため12/16にアシスタントの小菌先生と買い出しに市内にいったが駐車場に入るのに30分、出るのに1時間といった具合に案の定、年末の混雑に巻き込まれ早くもめげそうになってしまったが、テーマ実行のためじっとこらえた。

バスでの参加は10数名(約1名;○佐先生遅刻)で前年度版同門会誌で記述した『大勢と一緒に行って一緒に帰るという旅行も久しく行ってないのでそういうのもいいかなー』という希

望は少し叶えられての出発となった。バスの中では予想通りプレ宴会が始まり、準備したビールは飲み尽くされそれに伴う尿意のためトイレ休憩5回という経過をたどり大黒に到着した時には酔っぱらいの団体と化していた。

志布志湾大黒(別に宣伝依頼されているわけではないが)は、ホテルは新しく部屋も広く、海に面しているので部屋からの景色もとてもきれいで、お風呂はもちろん天然温泉ということなしという感じでした。大忘年会はまず田島教授から御挨拶があり、大黒自慢の活造りのすごさにびっくりさせられ、幹事も知らなかった大黒よりの芸「大黒の舞」が踊られ盛大に始まった。お酒が進み、ビンゴゲーム(豪華賞品多数)・グループ対抗二人羽織・1/6ロシアクラッカーなどのゲームで宴も盛り上がり、更にとどめは研修医+αによる芸『ダメダメボーイズ』であった。彼らの芸は先輩医師の駄目なところを指摘する芸であったが全てにおいて的を射ており宴会は最高潮に達し、久保先生の万歳三唱にてその幕を閉じた。

今回の企画に燃え尽き、次回こそはオープン参加で楽しんでやろうと思っていたが、2002年渡邊医局長より命ぜられた任務は、第3期厚生係(別称:厚生部)であり、その思いは脆くも崩れ去ってしまった。しかしやるからには今回に経験をふまえさらによいものを計画したいと考えてる協力この頃です。(次回同門会誌に続く)



新入会員紹介(賛助会員)



田代整形外科医院 田代逸哉

明けましておめでとうございます。この度は栄えある宮崎医大整形外科教室同門会賛助会員に御推薦いただき心より御礼申し上げます。

私は山口医大整形外科に入局後主として脊椎外科を中心に学び昭和42年より県立宮崎病院整形外科に参りました。以後岩切清文先生を始め多くの先生方に御指導を頂き昭和50年に開業致し今日に至っております。

数年前迄は元気で頑張っておりましたが、その後腎臓摘出、又昨年は肺気腔などに罹患しそろそろ人間の気力の限界を感じております。

最近国内ではバブルがはじけた後の不況のどん底、聖域なき構造改革を掲げ華々しくデビューした小泉内閣、加うるに世界を揺るがした米国同時多発テロと報復攻撃今だに世界中に不安と不景気をもたらしております。

今回の医療面の改革に於ても結局、保険者、患者、医療機関それぞれ痛みを分かち合う、三方一両損で決着となりましたが、痛みを治療する者が痛くてどこまで患者の痛みを止める事が出来ますやら。

今後先生方には大へんお世話様になる事と思いますがよろしく御指導の程御願ひ申し上げます。



丸田整形外科医院 丸田 廣

今年度より宮医大整形外科同門会会員に推薦していただきました。

今後共よろしく御指導の程お願い致します。

新入会員自己紹介 (正会員)



氏名 大倉 俊之
生年月日 昭和45年6月25日
出身高校 宮崎県立延岡高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 O型

平成7年に宮崎医科大学を卒業しました。卒後、整形外科と産婦人科で入局を迷い、宮崎医科大学の産婦人科に入局しました。産婦人科で約6年間研修し、専門医の資格を取得させていただきましたが、整形外科を勉強したいという思いが強く、平成13年1月に整形外科学教室に入局させていただきました。入局にあたって、整形外科と産婦人科の先生方に多大な御迷惑をおかけしましたが、母校の整形外科学教室に入局でき、とても嬉しく思っています。一生懸命頑張ろうと思っておりますので、今後とも宜しくお願いたします。



氏名 上通 一師
生年月日 昭和47年5月20日
出身高校 宮崎県立小林高等学校
出身大学 香川医科大学
血液型 A型

H13. 5月に入局しました上通一師です。

小林高校卒業後、熊本、福岡でそれぞれ1年間、四国は香川県にて8年間の修業を経て、現在に致っています。大学時代は、剣道で足腰をきたえていましたので、体力には、自信があるつもりです。

現在、妻(愛)1人、子(華)1人、胎児(5ヵ月)1人に囲まれ楽しい生活を送らせていただいています。仕事面でもよき同期、先輩にめぐまれ、充実した日々です。

入局してはやくも半年以上となり、コンピューターの入力にはだいぶ慣れてきましたが、そそっかしい性格のため入力自体を忘れてご迷惑をおかけすることがたびたびあり、大変申し訳なく思っています。

これからもご迷惑をおかけすることが、多々あると思っておりますが、一生懸命がんばりますので、御指導の程、よろしくお願い致します。



氏名 勝 嵐 葉 子
生年月日 昭和48年9月16日
出身高校 熊本県立熊本高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 A型

今年本学を奇跡的に卒業し、国家試験改変の困乱に乗じて医師免許を所得、当科に入局させていただきました、かつしませす。7月より4カ月間県立こども療育センターに勤務し、12月より再び大学に戻って参りました。私が大学に戻ってくることを最も待ち望んでおられたであろう、Cho佐助教授の下、病棟内をあわただしく走り回る毎日です。

卒業前は、熊本大学整形外科に入局するか、本学に残るか、散々悩みましたが、“ああ、うちに入局して本当によかった”と缶ビールを片手に清武川に映る月を見ながら心より実感しております。こんな私ではございますが、これからも御指導の程、宜しくお願い致します。



氏名 桐 谷 力
生年月日 昭和49年5月1日
出身高校 岐阜県立可児高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 A型

今年入局させていただきました桐谷力と申します。

山形生まれの岐阜育ちです。大学時代は、宮崎で陸上やサーフィンを楽しんでおりました。卒業旅行は、波乗り仲間とバリにいつてきました。日が出てから暮れるまで波乗りのことばかりできる旅行は大変楽しかったです。

仕事が始まって、もう8ヶ月。クリスマスは当直先で過ごすのもあたりまえの生活に少しは慣れてきました。きつい仕事のときは、ちょっぴりバリでの旅行のことを思い出して心を癒しております。

仕事に関しては、至らぬ点が多く、諸先生方には大変ご迷惑をかけながらもいつも厳しくも温かくご指導していただき感謝しております。早く自分でできる仕事をふやし自分が整形外科医として責任をもって働けるよう日々精進していきます。

今後とも公私にわたりご指導いただけますよう何卒よろしく願いいたします。



氏名 小松 奈美
生年月日 昭和50年6月24日
出身高校 在外指定スイス公文学園高等部
出身大学 宮崎医科大学
血液型 A型

今年入局させて頂きました。福岡県出身の小松です。実家に戻ろうかどうか迷いましたが、やはり出身大学で勉強させて頂くことに致しました。

入局してから早いもので8ヶ月が経ち、忙しいながらも毎日、楽しく勉強させて頂いております。幼少時からスポーツとの関わりが深く、現在も諸先生方のお言葉に甘えて、サッカーをさせて頂いております。

まだまだ諸先生方にはご迷惑ばかりおかけしておりますが、何卒宜しくお願い致します。



氏名 福嶋 秀一郎
生年月日 昭和51年8月23日
出身高校 宮崎西高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 O型

入局して1年が経とうとしていますが、日々、自分の知識のなさを痛感しています。ただ新しい事を学ぶ機会も多く、毎日が新鮮で整形外に入局し、よかったと感じています。

これからも御指導をよろしく申し上げます。

教室同門の研究業績

(1999. 1月～12月まで)

◆著 書

1) 頰椎捻挫 (むち打ち損傷)

田島直也

今日の治療指針2000, p 668-669, 医学書院, 東京, 2000.

2) 歯突起の奇形・変形

田島直也

今日の整形外科治療指針第4版, p 538-539,

医学書院, 東京, 2000.

3) Arnold-Chiari 奇形

田島直也

今日の整形外科治療指針第4版, p 540, 医学書院, 東京, 2000.

4) 代表的疾患の理学療法—スポーツ・リハビリテーション—脊椎

田島直也, 園田典生

理学診療マニュアル—運動器疾患のリハビリテーション—

改訂第2版, p 246-251, 全日本病院出版会, 2000.

◆原 著

1) Duracon 型人工膝関節全置換術の中期成績 (4年～6年経過例)

深野木快士, 三股恒夫, 帖佐悦男, 松岡知己, 坂本武郎,

田島直也, 桑原 茂

整形外科と災害外科, 49(1): 47-50, 2000.

2) 当科における人工膝関節置換術(TKR)後の大腿骨顆上骨折の治療経験

仙波 圭, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 金井一男, 田口 学,

川谷洋右, 池尻洋史

整形外科と災害外科, 49(1): 62-69, 2000.

3) 当科における小児大腿骨骨幹部骨折の治療経験

川谷洋右, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 金井一男, 田口 学,
池尻洋史, 福田朋博
整形外科と災害外科, 49(1): 118-121, 2000.

4) 臼蓋縁に骨移植術を併用した人工股関節形成術の術後成績

猪俣尚規, 帖佐悦男, 松岡知己, 坂本武郎, 坂田勝美, 田島直也
整形外科と災害外科, 49(2): 364-367, 2000.

5) 術中脊椎エコーを用いた脊椎前後径と拍動パターンの検討

市原久史, 田島直也, 後藤啓輔, 久保紳一郎, 黒木浩史, 松元征徳
整形外科と災害外科, 49(2): 405-409, 2000.

6) 鎖骨骨折に伴った烏口突起骨折の治療経験

本荘憲昭, 伊崎輝昌, 浅川康司, 葉 山泉
整形外科と災害外科, 49(2): 464-467, 2000.

7) 両前腕骨骨幹部骨折に対する髓内釘 (TRUE/FLEX) の使用経験

田口 学, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 金井一男, 川谷洋右,
池尻洋史, 福田朋博
整形外科と災害外科, 49(2): 471-474, 2000.

8) 低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病にOPLLを合併症した同胞例

松岡 篤, 松元征徳, 渡邊信二, 久保紳一郎, 田島直也, 作 良彦
整形外科と災害外科, 49(2): 534-538, 2000.

9) 脊柱管内に異所骨形成を伴った腰椎椎間板ヘルニアの病態と治療

松本英裕, 井口哲弘, 栗原 章, 山崎京子, 佐藤啓三, 笠原孝一
臨床整形外科, 35(1): 21-26, 2000.

10) 腰仙椎後側方固定術の遠隔成績-20年以上経過例についての検討-

田島直也, 後藤啓輔, 瀬良敬祐, 田口 厚, 鳥越雄喜, 小西宏昭
臨床整形外科, 35(5): 511-517, 2000.

- 11) Biomechanical analysis of effects of foot placement with varying chair height on the motion of standing up
Shoichi Kawagoe, Naoya Tajima, Etsuo Chosa
Journal of Orthopaedic Science, 5 : 124-133, 2000.
- 12) 医学部ラグビー部員の頸椎変化(第1報) - 初心者における1年間での変化 -
田島卓也, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 樋口潤一
日本整形外科学会雑誌, 20(1) : 92-97, 2000.
- 13) 変形性関節症(OA) ~ 診断(X線所見、疾患マーカー) - 股関節
帖佐悦男, 田島直也
THE BONE, 14(3) : 29-36, 2000.
- 14) 腰椎変性すべり症に対する後側方固定術の検討 - 整復操作と臨床成績との関連性について -
黒木浩史, 田島直也, 久保紳一郎, 後藤啓輔, 渡邊信二
西日本脊椎研究会誌, 26(1) : 102-107, 2000.
- 15) 医学部ラグビー部員の頸椎変化 - 初心者における2年間での変化 -,
田島卓也, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 樋口潤一
九州・山口スポーツ医・科学研究会誌, 12 : 86-91, 2000.
- 16) 疾患別リハビリテーション - 腰痛症、肩凝り、頸肩腕症候群
帖佐悦男, 田島直也
Monthly Book Orthopaedics, 13(9) : 170-176, 2000.
- 17) 頸椎脱臼における前方固定術後の局所アライメントの変化について
- ORION anterior cervical plate 併用の有用性の検討 -
安達耕一, 小西宏昭, 原真一郎, 高須賀良一, 原 寛徳, 山口和博,
伊達武利, 井上 篤, 山崎浩二郎, 玉井 崇
整形外科と災害外科, 49(3) : 787-791, 2000.
- 18) 殿筋群を剥離しない寛骨臼回転骨切り術 - Curved Periacetabular Osteotomy の治療成績 -
本莊憲昭, 花村達夫, 木田浩隆, 後藤俊介, 松本佳之, 城島 宏,
濱田賢治, 内藤正俊, 蒲原光義
整形外科と災害外科, 49(3) : 942-944, 2000.

- 19) 上位頸椎部における椎骨動脈の走行の検討
井上 篤, 小西宏昭, 原真一郎, 高須賀良一, 原 寛徳, 山口和博,
伊達武利, 安達耕一, 山崎浩二郎, 玉井 崇
整形外科と災害外科, 49(3) : 975-977, 2000.
- 20) Gamma nailおよびTHA術後に合併した大腿骨骨幹部骨折に対するDall-Miles Cable +
Compression Prateの使用経験
浪平辰州, 塩月康弘
整形外科と災害外科, 49(4) : 1074-1077, 2000.
- 21) In vitro biomechanical analysis of three anterior thoracolumbar implants
Hitchon PW, Goel VK, Rogge TN, Torner JC, Dooris AP, Drake
JS, Yang SJ, Totoribe K
Journal of neurosurgery, 93(2 Suppl) : 252-258, 2000.
- 22) (他科からの提言) 手のしびれと痛み
戸田 勝
宮崎県内科医会誌, 58 : 36-37, 2000.
- 23) 有限要素法による股関節モデル作製-要素分割に関し-
結城祥一, 帖佐悦男, 田島直也, 園田典生, 後藤啓輔
日本臨床バイオメカニクス学会誌, 21 : 73-76, 2000.
- 24) CPの歩行の経時的変化-床反力計による長期追跡例の検討-
山口和正, 柳園賜一郎, 富里恵美, 渡邊信二, 川越正一, 田島直也,
岡本義久
脳性麻痺の外科研究会誌, 10 : 16-19, 2000.
- 25) 頸椎椎間板ヘルニアに対するtransuncal approachによるdiscectomy without fusionの試み
久保紳一郎, 田島直也, 黒木浩史, 後藤啓輔
脊椎・脊髄神経手術手技, 2(1) : 19-22
(脊椎脊髄ジャーナル, 13(8)), 2000.
- 26) 股関節手術におけるModified transgluteal approachについて
帖佐悦男, 田島直也, 松岡知己, 坂本武郎
Hip joint, 26 : 53-56, 2000.

- 27) 一次性股関節症の病態と鑑別疾患
帖佐悦男, 田島直也, 松岡知己, 坂本武郎
Hip joint, 26 : 133-136, 2000.
- 28) 整形外科疾患における最近の画像診断～ I 特殊な X線撮影～股関節 (X線撮影法と荷重部位)
帖佐悦男, 田島直也
関節外科, 19(10) : 8-14, 2000.
- 29) 股関節のMR arthrography の特徴
帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 松岡知己, 坂本武郎
別冊整形外科, 38 : 58-62, 2000.
- 30) スポーツと腰痛について
田島直也, 桑原 茂
日本整形外科学会雑誌, 74(11) : 545-552, 2000.
- 31) 宮崎県 (地方都市) における側弯症検診の現状と問題点
黒木浩史, 田島直也, 渡邊信二
整形・災害外科, 44(1) : 33-39, 2000.
- 32) ジーントラップ法
関本朝久
整形外科, 51(13) : 1692, 2000.
- 33) Mutant mice lacking Crk-II caused by gene trap insertional mutagenesis : Crk-II is not essential for embryonic development
Tomohisa Sekimoto, Junichiro Yoshimuta, Takashi Imaizumi, Masatake Araki, Misao Suzuki, Naoya Tajima, Kimi Araki, Ken-ichi Yamamura
Mouse Molecular Genetics, 12 : 182, 2000.
- 34) Characterization of two mutant mouse lines established by the exchangeable gene trapping
Kei Semba, Tomohisa Sekimoto, Junichiro Yoshimuta, Misao Suzuki, Kimi Araki, Ken-ichi Yamamura
International Mouse Genome Conference, 14 : 72, 2000.

- 35) Mutant mice lacking Crk-II caused by gene trap insertional mutagenesis
Tomohisa Sekimoto, Junichiro Yoshimuta, Takashi Imaizumi,
Masatake Araki, Misao Suzuki, Naoya Tajima, Kimi Araki, Ken-
-ichi Yamamura
International Mouse Genome Conference, 14 : 374, 2000.
- 36) 不安定ヘモグロビン症の麻酔経験
石田康行, 寺山公栄, 水元 裕, 水上 智, 松本延章, 松本 勲
臨床麻酔, 24(9) : 1507-1508, 2000.

◆症例報告

1) 陳旧性大胸筋皮下断裂の一例

富里恵美, 川越正一, 神藪 豊, 黒木龍二, 谷島 満, 田島直也
整形外科と災害外科, 49(1) : 189-192, 2000.

2) 近位脛腓関節癒合症の1例

浪平辰州, 塩月康弘, 井上 篤
整形外科と災害外科, 49(2) : 502-505, 2000.

3) 破壊性脊椎関節症(DSA)の2症例

牟田口 滋, 阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 佐本信彦,
松浦愛二, 河原勝博, 末永賢也, 門内一郎, 小林邦雄
整形外科と災害外科, 49(2) : 543-546, 2000.

4) 脊髄麻痺を伴った高度後側弯症の一手術例

黒木浩史, 田島直也, 久保紳一郎, 後藤啓輔, 渡邊信二
西日本脊椎研究会誌, 26(2) : 235-239, 2000.

5) 脊髄疾患に起因した脊柱側弯症の2例

岡田麻里, 田島直也, 久保紳一郎, 黒木浩史, 渡邊信二, 後藤啓輔
整形外科と災害外科, 49(3) : 669-673, 2000.

6) 橈骨矯正骨切り術および Sauvé Kapandji法を併用した両側 Madelung変形の1例

村上 弘, 川越正一, 黒木龍二, 谷島 満, 田島直也
整形外科と災害外科, 49(3) : 832-835, 2000.

7) 第3頸椎に発生した悪性リンパ腫の1例

玉井 崇, 山崎浩二郎, 安達耕一, 井上 篤, 伊達武利, 山口和博,
原真一郎, 原 寛徳, 小西宏昭, 高須賀良一
整形外科と災害外科, 49(4):1092-1096, 2000.

◆学会報告

1) 高校ボクシングチームメディカルサポートの成果と将来への展望

獅子目賢一郎, 鳥取部光司, 尾田朋樹
第23回宮崎県スポーツ医学研究会, 2000, 1, 宮崎.

2) 坐骨結節裂離骨折の2例

益山松三, 田辺龍樹, 松元征徳, 山口政一朗, 田島直也, 矢野浩明
第23回宮崎県スポーツ医学研究会, 2000, 1, 宮崎.

3) 神経根症状を呈し、椎間板ヘルニアとの鑑別が困難であった椎間板のう腫の一例

野中隆史, 樋口潤一, 田島直也, 園田典生, 山本恵太郎
第23回宮崎県スポーツ医学研究会, 2000, 1, 宮崎.

4) 経舟状骨月状骨周囲背側脱臼の1例

山本恵太郎, 園田典生, 黒木龍二, 田島直也, 川越正一, 神薊 豊
第23回宮崎県スポーツ医学研究会, 2000, 1, 宮崎.

5) 投球骨折の治療経験

福田朋博, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 田口 学, 川谷洋右,
市原久史
第23回宮崎県スポーツ医学研究会, 2000, 1, 宮崎.

6) 特異顔貌を有する重度内反足の3症例

柳園賜一郎, 山口和正, 富里恵美
第16回九州小児整形外科集談会, 2000, 1, 福岡.

7) 大腿骨頭すべり症術後に生じた大腿骨頭壊死

石田康行, 長鶴義隆, 大田博人, 川添浩史, 江夏 剛
第16回九州小児整形外科集談会, 2000, 1, 福岡.

8) 陳旧性舟状骨骨折の術後5年経過例の検討

黒木龍二, 帖佐悦男, 川越正一, 谷島 満, 田島直也
第21回九州手の外科研究会, 2000, 2, 別府.

9) 胸椎椎間板ヘルニアの1症例

川谷洋右, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 田口 学, 福田朋博,
市原久史
第15回宮崎救急医学会, 2000, 2, 日南.

10) 胸腰椎破裂骨折に対する前方除圧再建術の治療成績

有住裕一, 田島直也, 久保紳一郎, 黒木浩史, 後藤啓輔, 渡部正一
第15回宮崎救急医学会, 2000, 2, 日南.

11) R A 股臼蓋突出症に対する骨移植併用セメントレスソケットの使用経験

甲斐睦章, 財津泰久, 海田博志
第19回九州リウマチ学会, 2000, 3, 久留米.

12) 慢性関節リウマチ患者における骨粗鬆症

江夏 剛, 桑原 茂, 金井純次, 山下良三, 吉田好志郎, 篠原典夫,
木村千仞
第19回九州リウマチ学会, 2000, 3, 久留米.

13) 血色素異常症の麻酔経験

石田康行, 寺山公栄, 水元 裕, 水上 智, 松本延章, 松本 勲
埼玉麻酔研究会, 2000, 3, 毛呂山.

14) 骨腫瘍と疑われた insufficiency fracture の1例

深野木快士, 税所幸一郎, 黒沢 治, 荻田幹夫
第15回宮崎県リウマチ研究会, 2000, 4, 宮崎.

15) 片側下肢に高度の変形をきたしたRAの1例

金井純次, 桑原 茂, 吉田好志郎, 津曲孝康, 篠原典夫, 木村千仞
第15回宮崎県リウマチ研究会, 2000, 4, 宮崎.

16) 下肢多関節人工関節手術を行い歩行可能となったRA患者の一例

海田博志, 甲斐睦章, 財津泰久
第15回宮崎県リウマチ研究会, 2000, 4, 宮崎.

- 17) Protrusio acetabuli に対し骨移植を併用したサポートリングの使用経験
公文崇詞, 帖佐悦男, 松岡知己, 渡邊信二, 坂本武郎, 富里恵美,
後藤英一, 田島直也
第15回宮崎県リウマチ研究会, 2000, 4, 宮崎.
- 18) RA人工関節手術例へのクリティカルパスの応用
日野亜紀子, 江藤ますみ, 濱田真理, 田中弓子, 津曲孝康,
吉田好志郎, 金井純次, 桑原 茂
第8回宮崎リウマチのケア研究会, 2000, 4, 宮崎.
- 19) 慢性関節リウマチにおける頸椎病変の脊髄MRI所見の検討
桑原 茂, 金井純次, 木村千仞, 吉田好志郎, 江夏 剛, 篠原典夫,
田島直也
第73回日本整形外科学会学術集会, 2000, 4, 神戸.
- 20) 学校検診の現状と問題点－宮崎県における側弯症検診の結果より－
黒木浩史, 田島直也, 渡邊信二
第73回日本整形外科学会学術集会, 2000, 4, 神戸.
- 21) 寛骨臼球状骨切り術
長鶴義隆, 大田博人, 川添浩史, 石田康行
第73回日本整形外科学会学術集会, 2000, 4, 神戸.
- 22) HATCP コーティング人工骨頭における術後3年以上の成績
松岡知己, 帖佐悦男, 柏木輝行, 坂本武郎, 安藤 徹, 田島直也
第73回日本整形外科学会学術集会, 2000, 4, 神戸.
- 23) Finite element analysis of lumbar spine – The 3rd report –
Naoya Tajima, Koji Totoribe, Etsuo Chosa
The 10th Japanese – Taiwanese Orthopaedic Symposium,
2000, 5, Fukushima.
- 24) 各種スポーツにおける外傷と傷害の予防－腰椎・成人－
桑原 茂, 田島直也
第26回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2000, 5, 東京.

- 25) 遺伝子トラップ法により得られた変異マウス Ayu8016 と Ayu8030 の解析
関本朝久, 吉牟田純一郎, 鈴木 操, 田島直也, 荒木喜美, 山村研一
第33回日本発生生物学会, 2000, 5, 高知.
- 26) 効率的な遺伝子置換が可能な可変型遺伝子トラップ法
荒木喜美, 今泉隆志, 関本朝久, 荒木正健, 山村研一
第33回日本発生生物学会, 2000, 5, 高知.
- 27) 遺伝子トラップ法より得られた変異マウス Ayu8022 と Ayu8041 の解析
吉牟田純一郎, 関本朝久, 遠藤文夫, 田島直也, 荒木喜美,
鈴木 操, 山村研一
第33回日本発生生物学会, 2000, 5, 高知.
- 28) 遺伝子トラップ法により得られた変異マウス Ayu8021 と Ayu8029 の解析
仙波 圭, 関本朝久, 吉牟田純一郎, 高木克公, 鈴木 操,
荒木喜美, 山村研一
第33回日本発生生物学会, 2000, 5, 高知.
- 29) 遺伝子トラップ法により樹立されたマウスライン Ayu8008 の解析
吉信公美子, 荒木正健, 吉牟田純一郎, 関本朝久, 荒木喜美,
鈴木 操, 山村研一
第33回日本発生生物学会, 2000, 5, 高知.
- 30) 人工透析中の慢性関節リウマチ患者に対するミゾリビンの長期投与の経験
税所幸一郎, 黒沢 治, 前田和徳, 花房明憲, 田島直也
第44回日本リウマチ学会, 2000, 5, 横浜.
- 31) 慢性関節リウマチにおける血中 adrenomedullin、Adrenomedullin mature と ESR、CRP との
比較検討
濱田浩朗, 北村和雄, 帖佐悦男, 田島直也
第44回日本リウマチ学会, 2000, 5, 横浜.
- 32) 頸椎後方 instrument における Olerud Cervical の使用経験
安達耕一, 小西宏昭, 原真一郎, 高須賀良一, 原 寛徳, 山口和博,
伊達武利, 井上 篤, 山崎浩二郎, 玉井 崇
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

33) 母指CM関節症に対する関節固定術の経験

名護宏泰, 中島英親, 寺本憲市郎, 原田香苗, 田中達朗, 武田浩志,
糸満弘之
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

34) 幼児外傷性右股関節脱臼の1例

財津泰久, 甲斐睦章, 海田博志
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

35) 小指基筋骨に発生した類骨骨腫の1例

松岡 篤, 黒木龍二, 園田典生, 矢野浩明, 山本恵太郎, 谷島 満,
田島直也
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

36) 反復性肩関節脱臼に対するBristow変法の術後成績

谷島 満, 黒木龍二, 矢野浩明, 田島直也, 川越正一
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

37) 30歳男性に発症した両側大腿骨頸部 Insufficiency fracture の1例

黒沢 治, 税所幸一郎, 前田和徳, 深野木快士
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

38) 人工膝関節置換術後の歩行の検討

後藤英一, 帖佐悦男, 渡邊信二, 松岡知己, 坂本武郎, 公文崇詞,
田島直也
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

39) 高齢者における胸腰椎圧迫骨折の予後と造影MRIとの関連について

益山松三, 田辺龍樹, 松元征徳, 山口政一朗, 田島直也, 矢野浩明
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

40) 胸腰椎破裂骨折に対する前方除圧再建術の治療成績

有住裕一, 田島直也, 久保紳一郎, 黒木浩史, 後藤啓輔, 川野彰裕
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.

- 41) 小児脛骨遠位部 Triplane 骨折 7 例の治療経験
田中達朗, 中島英親, 寺本憲市郎, 原田香苗, 名護宏泰, 糸満弘之
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.
- 42) 治療に難渋した緑膿菌による化膿性膝関節炎の 1 例
浪平辰州, 前田和徳
第99回西日本整形・災害外科学会, 2000, 6, 北九州.
- 43) 中島式創外固定器を用いた Bennett 骨折・Rolando 骨折の治療経験
田中達朗, 中島英親, 寺本憲市郎, 原田香苗, 名護宏泰, 糸満弘之
第26回日本骨折治療学会, 2000, 6, 東京.
- 44) Finite Element Method (FEM) Analysis for Tibial Stress Fracture
N.Sonoda, K.Yamamoto, K.Totoribe, E.Chosa, N.Tajima
The 5th Korea-Japan Joint Meeting of Orthopaedic Sports
Medicine, 2000, 6, Kyongju.
- 45) スポーツ外傷のリハの評価
樋口潤一, 田島直也
第37回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2000, 6, 東京.
- 46) 在宅介護者の介護負担感
田中正一
第37回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2000, 6, 東京.
- 47) 痙性尖足歩行未治療児への治療効果—訓練・手術前後の歩行分析評価
岡田麻里, 柳園賜一郎, 山口和正
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.
- 48) 投球時における体幹回旋のバイオメカ
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 田島直也
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.
- 49) 高齢者の転倒に関する検討
平部久彬, 田島直也, 帖佐悦男
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

50) 1997年Clinical Orthopaedics and Related Research345. Ranawat Award論文の間違いについて

柏木輝行, 田島卓也, 長濱彰宣, 矢野良英, 黒木隆男,
Gerard A.Engl, Charles A.Engl
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

51) セメントレス人工膝関節・LCS Total Knee Arthroplastyのレ線学的研究

柏木輝行, 田島卓也, 長濱彰宣, 矢野良英, Peter A.Keblish
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

52) 診断・治療に難渋した頸椎脱臼骨折の1例

市原久史, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 田口 学,
東 高弘, 西里徳重
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

53) 高度な狭窄を伴った後縦靭帯骨化症の症例の検討

坂田勝美, 小林邦雄, 徳久俊雄, 高妻雅和, 阿久根広宣, 出口伸治,
池尻洋史, 花田麻須大, 由布竜矢, 中尾絃一
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

54) 特発性側弯症に対する装具療法の治療成績－大阪医大式装具（OMC brace）を用いて－

黒木浩史, 田島直也, 渡邊信二, 後藤啓輔, 川野彰裕, 有住裕一
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

55) 小指基節骨に発生した類骨骨腫の1例

松岡 篤, 黒木龍二, 園田典生, 矢野浩明, 山本恵太郎, 谷島 満,
田島直也
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

56) 好酸球性肉芽腫の自然経過例

由布竜矢, 篠原典夫, 小林邦雄, 徳久俊雄, 高妻雅和, 阿久根広宣,
出口伸治, 池尻洋史, 花田麻須大, 海田博志
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

57) 下肢病的骨折に対する治療経験

江夏 剛, 川添浩史, 松岡知己, 長鶴義隆
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.

- 58) 長管骨転移性骨腫瘍に対する骨接合術（セメント併用）の経験
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 坂田勝美, 小牧 亘, 田島直也,
前田和徳
第40回宮崎整形外科懇話会, 2000, 7, 宮崎.
- 59) MX人工股関節におけるHDP磨耗の検討
帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二, 角南義文
第9回MX人工股関節研究会, 2000, 7, 横浜.
- 60) Posterolateral fusion of the lumbar and lumbosacral spine -long term results-
Naoya Tajima
Swiss-Japan-Orthopaedic Conference, 2000, 8, Basel.
- 61) Finite element analysis of lumbar spine
Naoya Tajima
Swiss-Japan-Orthopaedic Conference, 2000, 8, Bern.
- 62) Finite element analysis of lumbar spine
Naoya Tajima
Swiss-Japan-Orthopaedic Conference, 2000, 8, Bettlach.
- 63) Mutant mice lacking Crk-II caused by gene trap insertional mutagenesis ; Crk-II
is not essential for embryonic development
Tomohisa Sekimoto, Junichiro Yoshimuta,
Takashi Imaizumi, Masatake Araki, Misao Suzuki,
Naoya Tajima, Kimi Araki, Ken-ichi Yamamura
Mouse Molecular Genetics Meeting2000, 2000, 8, New York.
- 64) 脛骨跳躍型疲労骨折に関するFEM解析
園田典生, 鳥取部光司, 帖佐悦男, 田島直也
第15回日本整形外科学会基礎学術集会, 2000, 9, 京都.
- 65) 遺伝子トラップ法を用いた骨・軟骨の発生・分化に関与する未知遺伝子の探索-第2報-
関本朝久, 仙波 圭, 帖佐悦男, 田島直也, 荒木喜美, 山村研一
第15回日本整形外科学会基礎学術集会, 2000, 9, 京都.

- 66) Biochemical and morphological studies on human intervertebral disc disease
R. Ahsan, N. Tajima, E. Chosa, S. Kubo,
M. Sugamata, M. Sumida, M. Hamada
British Orthopaedic Association Japanese Orthopaedic
Association Combined Congress 2000, 2000, 10, London.
- 67) Clinical results of posterolateral fusion for lumbar spondylolisthesis – a follow-up study
of more than 3 years
H. Kuroki, N. Tajima, S. Kubo, K. Goto,
S. Watanabe, E. Chosa
British Orthopaedic Association Japanese Orthopaedic
Association Combined Congress 2000, 2000, 10, London.
- 68) 抗生剤含有セメントスペーサーの溶出試験
帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二, 柏木輝行
第28回日本リウマチ・関節外科学会, 2000, 10, 岡山.
- 69) スポーツ外来の現状と今後の課題 – 地方国立大学附属病院において –
園田典生, 帖佐悦男, 田島直也, 黒木俊政, 樋口潤一
第11回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2000, 10, 宮崎.
- 70) サーファーの腰痛 – アンケート調査に基づく検討
岡田麻里, 帖佐悦男, 渡邊信二, 田島直也
第11回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2000, 10, 宮崎.
- 71) 高齢者 (70歳以上) の腰椎疾患に対する手術例の検討
栗原典近, 田島直也, 黒木浩史, 後藤啓輔, 有住裕一
第54回西日本脊椎研究会, 2000, 10, 熊本.
- 72) 股関節症に対する内反骨切り術の適応と長期成績
長鶴義隆, 松岡知己, 川添浩史, 江夏 剛
第27回日本股関節学会学術集会, 2000, 11, 名古屋.
- 73) 変形性股関節症における X線像の評価基準について
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 田島直也
第27回日本股関節学会学術集会, 2000, 11, 名古屋.

- 74) Hip-spine syndrome -分類における症状とX線学的特徴-
帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二
第27回日本股関節学会学術集会, 2000, 11, 名古屋.
- 75) Idiopathic ossification of the labrum (特発性臼蓋唇骨化) について
帖佐悦男, 田島直也, R. Ganz
第27回日本股関節学会学術集会, 2000, 11, 名古屋.
- 76) 人工股関節置換術後の歩行変化
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 田島直也
第27回日本股関節学会学術集会, 2000, 11, 名古屋.
- 77) Mutant mice lacking Crk-II caused by gene trap insertional mutagenesis
Tomohisa Sekimoto, Junichiro Yoshimuta,
Takashi Imaizumi, Masatake Araki, Misao Suzuki
Naoya Tajima, Kimi Araki,
Ken-ichi Yamamura
The 14th International Mouse Genome Conference,
2000, 11, Narita.
- 78) Characterizaion of two mutant mouse lines established by the exchangeable gene trapping
Kei Semba, Tomohisa Sekimoto, Junichiro Yoshimuta, Misao Suzuki, Kimi Araki, Ken-ichi Yamamura
The 14th International Mouse Genome Conference,
2000, 11, Narita.
- 79) ヒト変異トランスサイレチン異所性発現による鼻上顎奇形マウス
野口博光, 荒木喜美, 荒木正健, 関本朝久, 小野友道, 山村研一
第17回日本疾患モデル学会総会, 2000, 11, 東京.
- 80) 交通事故における頸椎損傷の力学的解析-三次元有限要素法を用いて-
鳥取部光司, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 後藤啓輔, 結城祥一
第27回日本臨床バイオメカニクス学会, 2000, 11, つくば.

- 81) 腰椎椎間板に内圧を設定した三次元FEMモデルでの解析
後藤啓輔, 田島直也, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 黒木浩史, 有住裕一,
新井 隆
第27回日本臨床バイオメカニクス学会, 2000, 11, つくば.
- 82) 投球動作時の腰椎回旋についての検討
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 田島直也
第27回日本臨床バイオメカニクス学会, 2000, 11, つくば.
- 83) 骨盤骨折に対する治療経験
海田博志, 有菌 剛, 阿久根広宣, 由布竜矢, 中山功一, 高妻雅和,
徳久俊雄, 小林邦雄
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.
- 84) 軸椎歯突起軟骨結合解離の1例
崎村俊之, 原真一郎, 高須賀良一, 小西宏昭, 山口和博, 馬場秀夫,
井上 篤, 安達耕一, 麻生英一郎, 野崎義宏
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.
- 85) Cystにより脊髄圧迫症状を呈した os odontoideum の一症例
野崎義宏, 小西宏昭, 原真一郎, 高須賀良一, 山口和博, 馬場秀夫,
井上 篤, 安達耕一, 麻生英一郎, 崎村俊之
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.
- 86) 小児の橈骨遠位端骨折後変形に対する手術経験
原田香苗, 中島英親, 寺本憲市郎, 田中達朗, 名護宏泰, 戸羽直樹
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.
- 87) 長管骨転移性骨腫瘍に対する骨接合術(セメント併用)の経験
小牧 亘, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 坂田勝美, 岡田麻里,
田島直也
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.
- 88) Charcot 肘関節に発症した化膿性関節炎の1例
浪平辰州, 前田和徳
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

89) 小児における下肢広範囲皮膚欠損に対する治療経験

田中達朗, 中島英親, 寺本憲市郎, 原田香苗, 名護宏泰, 戸羽直樹
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

90) 頸椎変性疾患に対する多椎間前方固定における前方プレートの意義

安達耕一, 小西宏昭, 原真一郎, 高須賀良一, 山口和博, 馬場秀夫,
井上 篤, 麻生英一郎, 野崎義宏, 崎村俊之
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

91) 腰椎椎間板ヘルニア患者における椎間関節の形態学的検討

有菌 剛, 小林邦雄, 徳久俊雄, 高妻雅和, 阿久根広宣, 中山功一,
海田博志, 由布竜矢
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

92) 大きな関節窩骨欠損を有する反復性肩関節脱臼の治療

本荘憲昭, 柴田陽三, 緑川孝司, 内藤正俊
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

93) 投球時における体幹回旋についての検討

坂田勝美, 帖佐悦男, 渡邊信二, 坂本武郎, 岡田麻里, 小牧 亘,
田島直也
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

94) 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する骨釘移植術の術後成績

麻生英一郎, 山口和博, 高須賀良一, 小西宏昭, 原真一郎,
馬場秀夫, 井上 篤, 安達耕一, 野崎義宏, 崎村俊之
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

95) 脳性麻痺股関節亜・脱臼に対する筋解離術の効果

村上 弘, 山口和正, 柳園賜一郎
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

96) 前腕における仮骨延長法の経験

矢野浩明, 黒木龍二, 園田典生, 山本恵太郎, 村上恵美, 小菌敬洋,
川越正一, 戸田 勝, 田島直也
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.

- 97) エチドロン酸二ナトリウム投与における骨代謝マーカーと骨塩量の変化について
有住裕一, 田島直也, 帖佐悦男, 黒木浩史, 後藤啓輔, 栗原典近
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.
- 98) 慢性関節リウマチ高度膝関節破壊例における人工膝関節置換の経験
益山松三, 桑原 茂, 金井純次, 吉田好志郎, 篠原典夫, 木村千俣
第100回西日本整形・災害外科学会, 2000, 11, 長崎.
- 99) 職業性腰痛の疫学
帖佐悦男, 田島直也, 黒木浩史, 後藤啓輔, 松元征徳
第8回日本腰痛学会, 2000, 11, 東京.
- 100) 腰椎椎間板に内圧を設定した三次元FEMモデルでの解析
後藤啓輔, 田島直也, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 黒木浩史, 有住裕一
第21回バイオメカニズム学術講演会, 2000, 11, 福岡.
- 101) 柔道による小児外傷性股関節脱臼の1例
田島卓也, 園田典生, 帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 矢野良英
第13回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2000, 12, 福岡.
- 102) 実業団柔道選手の外傷、障害とその対策
樋口潤一, 森 治樹, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 山本恵太郎,
黒木俊政
第13回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2000, 12, 福岡.
- 103) 柔道による小児外傷性股関節脱臼の1例
田島卓也, 園田典生, 帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 矢野良英
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 104) 腓骨筋断裂により生じた下腿外側コンパートメント症候群の一例
河野 立, 塩月康弘, 神薊 豊
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 105) 肘に発症した滑膜性骨軟骨腫症の1例
市原久史, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 田口 学, 東 高弘,
西里徳重
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.

- 106) Universal LCS型人工膝関節の短期成績
坂本康典, 税所幸一郎, 深野木快士
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 107) リン酸カルシウム骨ペーストを併用した人工膝関節再置換術の経験
益山松三, 桑原 茂, 金井純次, 篠原典夫, 木村千帆, 大平 卓
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 108) 透析患者に対する鏡視下手根管開放術後手掌に巨大水疱形成を生じた1例
谷脇功一, 市原正彬, 関本朝久, 渡部正一
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 109) 橈骨楔状骨切りを行ったキーンバック病の3例
川添浩史, 長鶴義隆, 松岡知己, 江夏 剛
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 110) 自然治癒した急性頸椎硬膜外血腫の2例
河原勝博, 酒井 健, 森田信二
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 111) 腰椎変性疾患における椎間関節の形態学的検討
有菌 剛, 小林邦雄, 徳久俊雄, 高妻雅和, 阿久根広宣, 中山功一,
海田博志, 由布竜矢
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 112) 当科における最近の側弯症診療状況と治療プログラム
黒木浩史, 田島直也, 後藤啓輔, 有住裕一, 栗原典近, 小菌敬洋
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 113) 青壮年橈骨遠位端骨折の観血的治療
塩月康弘, 神菌 豊, 河野 立
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 114) 小指PIP関節橈側側副靭帯損傷に対する治療経験
村上恵美, 黒木龍二, 園田典生, 矢野浩明, 山本恵太郎, 田島直也,
谷島 満
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.

- 115) 上肢外傷性末梢神経損傷に対する手術例の検討
神菌 豊, 塩月康弘, 河野 立
第41回宮崎整形外科懇話会, 2000, 12, 宮崎.
- 116) 効率的な遺伝子置換が可能な可変型遺伝子トラップ法
荒木喜美, 関本朝久, 荒木正健, 山村研一
第23回日本分子生物学会, 2000, 12, 神戸.
- 117) 遺伝子トラップ法により樹立されたマウスライン Ayu8008の解析
吉信公美子, 荒木正健, 吉牟田純一郎, 関本朝久, 荒木喜美,
鈴木 操, 山村研一
第23回日本分子生物学会, 2000, 12, 神戸.
- 118) 遺伝子トラップ法により得られた変異マウス Ayu8022と Ayu8030の解析
関本朝久, 吉牟田純一郎, 遠藤文夫, 田島直也, 荒木喜美,
鈴木 操, 山村研一
第23回日本分子生物学会, 2000, 12, 神戸.
- 119) 遺伝子トラップ法により得られた変異マウス Ayu8021と Ayu8029の解析
仙波 圭, 関本朝久, 荒木喜美, 鈴木 操, 山村研一
第23回日本分子生物学会, 2000, 12, 神戸.
- 120) ヒト変異トランスサイレチンの異所性発現による鼻上顎奇形マウス
野口博光, 荒木喜美, 荒木正健, 関本朝久, 小野友道, 山村研一
第23回日本分子生物学会, 2000, 12, 神戸.
- 121) マウス消化管発生過程における Hox 遺伝子の発現
川添泰弘, 関本朝久, 荒木正健, 高木克公, 荒木喜美, 山村研一
第23回日本分子生物学会, 2000, 12, 神戸.

◆講 演

1) 肩・肘の障害予防を目指して

田島直也

(財)世界少年野球推進財団平成11年度少年野球指導者講習会,
2000, 1, 宮崎.

2) スポーツと腰痛

田島直也

第144回岡山県臨床整形外科医会, 2000, 1, 岡山.

3) 整形外科の病気－膝の痛みについて

平川俊一

サンシャインFM健康相談, 2000, 1, 宮崎.

4) スポーツと脊椎について

田島直也

第14回長崎県スポーツ医学研修会, 2000, 3, 長崎.

5) スポーツと腰痛について

田島直也

第73回日本整形外科学会学術集会, 2000, 4, 神戸.

6) 腰痛の臨床

田島直也

社団設立20周年記念講演会(宮崎県柔道整復師会創立66周年),
2000, 4, 宮崎.

7) 腰痛の臨床

田島直也

第68回備後整形外科医会学術集会, 2000, 6, 福山.

8) 発育期の体力特性と運動指導

田島直也

平成12年度奈良県医師会スポーツ医学部会総会, 2000, 6, 橿原.

9) ラグビーと外傷

田島卓也

平成12年度宮崎県ラグビー協会安全対策講習会, 2000, 6, 宮崎.

10) 中高年とスポーツ

田島直也

神奈川西湘南地区整形外科症例検討会, 2000, 7, 厚木.

11) 筋肉増強剤・スポーツドリンクスポーツにおける薬剤(物)使用とその影響ー

田島直也

平成12年度宮崎医科大学公開講座(生活改善薬), 2000, 7, 延岡.

12) 筋肉増強剤・スポーツドリンクスポーツにおける薬剤(物)使用とその影響ー

田島直也

平成12年度宮崎医科大学公開講座(生活改善薬), 2000, 7, 宮崎.

13) スポーツと腰痛について

田島直也

第43回北海道エルム整形外科研究会, 2000, 9, 札幌.

14) 腰痛の臨床

田島直也

南那珂外科整形外科医会学術講演会, 2000, 9, 日南.

15) 骨粗鬆症ー診断を中心にー

帖佐悦男

第1回宮崎骨粗鬆症研究会, 2000, 9, 宮崎.

16) 成長期スポーツ障害と問題点

田島直也

第17回熊本スポーツ整形外科研究会, 2000, 10, 熊本.

17) 臨床スポーツ医学会10年間の歩みと21世紀への期待

田島直也

第11回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2000, 10, 宮崎.

18) 中高年のスポーツ医学

田島直也

中島深水先生 平成11年度日体協公認スポーツ指導者等表彰記念
2000年スポーツ医学研究会, 2000, 11, 長野.

19) スポーツ医学について

田島直也

スポーツ基礎講座(清武町), 2000, 12, 清武.

編集後記

第13号の同門会誌をようやくお届けすることができます。予定より2ヶ月近く発行が遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。ひとえに私の力量不足であり、御容赦頂きたいと思えます。

さて、今回は卒後10年、30年の先生方に特別に寄稿をお願い致しました。10年には10年の30年には30年のそれぞれの思いが綴られていて興味深く読ませていただきました。特に永吉先生にはご自身で経験された中で、お奨めの治療法等を紹介していただき、私を含め若い先生方には大変参考になると思えます。

また、今回から『趣味悠々』という企画を設けました。早速、松本（宏）先生と麻生先生に将棋と釣りの話を投稿頂きました。忙しい診療の合間に趣味をエンジョイされている様子がよくわかります。川野（啓）先生からは「旅」についてのエピソード、楽しみ方など面白いお話を頂きました。仕事だけでなく、趣味や旅を通じて人生そのものを豊かに過ごしたいものです。次回も、皆様が密かに持っておられる趣味の話を是非聞かせて下さい。

『新規開業』では長田先生、作先生、結城先生に投稿頂きました。先生方のやる気というか熱意がひしひしと伝わってきます。初心を忘れず、頑張ってください。

その他にもたくさんのお話を頂きました。くすっと笑える話、なるほどと頷ける話等等、盛りだくさんです。あらためて皆様方の御寄稿に感謝申し上げます。

今年は6月に田島教授最後の主催となる学会が開催されます。同門会員一同、学会の成功を心よりお祈り申し上げます。

2002年3月吉日

福田 健二

宮崎医大整形外科学教室

同 門 会 誌

発 行 日 平成14年3月

発 行 者 宮崎医科大学整形外科学教室同門会

編集責任者 福 田 健 二

印 刷 所 身体障害者授産施設やじろべえ